

はじめに（神田外語大学 学長室 寺澤岳生・村田裕司）

本学は、学生の学修成果を把握し、エビデンスに基づく PDCA サイクルを強化するために、教育アセスメントとして 2016 年度から大学 IR コンソーシアム加盟校共通の「学生アンケート調査」を行っています。現在は、「新入生アンケート調査」、「学部在学生アンケート調査」、「卒業時アンケート調査」、「卒業生アンケート調査（既卒生対象）」、「企業アンケート」を実施しています。本報告書では、これらアンケートの分析結果（抜粋）とともに、MJIR（大学情報・機関調査研究会）での発表論文の要旨をご紹介します。

P2

学生アンケート集計結果
— 2020・2021・2022・2023 —（抜粋）

卒業生アンケート 2023
集計結果（抜粋）

P14

P16

企業アンケート 2024 年 2 月
集計結果（抜粋）

卒業時アンケート 2024 年 3 月
集計結果（抜粋）

P18

P20

新入生アンケート 2024
集計結果（抜粋）

大学情報・機関調査研究会
（MJIR）発表要旨

P24

P30

学長室 IR 推進チーム
主な業務・活動記録
（2023 年度）

IR（Institutional Research）とは「客観的なデータ分析に基づいた大学における諸活動の効果検証及び、情報提供を通じた大学の意思決定又は業務の継続的改善を支援すること」（山形大学次世代形成・評価開発機構 IR 部門 Web サイトより）です。大学のなかで行われている様々な活動を客観的データに基づいて分析し、データと分析結果を共有することで大学の PDCA サイクルを強化し、業務の改善につなげていく活動です。

学生アンケート集計結果 —2020・2021・2022・2023 年度—（抜粋）

●本学における共通学生アンケート実施状況

対 象：学部在学生

調 査 方 法：Googleフォームを利用した Web アンケート

回答所要時間：約 18～20 分

内 容：IR コンソーシアム共通の項目に、インターンシップや留学関係など、本学独自項目を追加
（授業経験、学習態度、週当たりの学習時間、入学後の能力変化、英語運用能力、大学生活への適応、大学教育・施設への満足度等を調べる間接アセスメント調査）

実施年度	2023 年度	2022 年度
実施期間	9/6～11/1	9/7～11/2
対象者数	4,106	4,170
回答数	1,285	1,211
回答率	31.3%	29.0%
集計結果 URL	1 年生結果 http://bit.ly/480ysS1 上級生(2～4 年生)結果 http://bit.ly/3v3SrAz	1 年生結果 https://bit.ly/40uzhyo 上級生(2～4 年生)結果 https://bit.ly/40aD6cf
集計結果 QRコード	1 年生結果  上級生(2～4 年生)結果 	1 年生結果  上級生(2～4 年生)結果 

●大学 IR コンソーシアムについて

大学 IR コンソーシアム（以下、「コンソーシアム」）は、平成 21 年度文部科学省「大学教育充実のための戦略的大学連携支援プログラム」（GP）に採択された「相互評価に基づく学士課程教育質保証システムの創出—国公立 4 大学 IR ネットワーク」を基盤として、同プログラムの代表校である同志社大学、連携校の北海道大学、大阪府立大学、甲南大学が中心となって、2011 年度にコンソーシアム設置準備委員会を組織し、2012 年 9 月 25 日に正式に発足した組織です。日本の高等教育における IR の必要性の広がりとともに会員校数が増加し、その社会的責任も次第に大きくなってきたことから、2018 年 4 月には、一般社団法人に移行いたしました。現在では、全国の国公立約 66 大学が加盟しています。

コンソーシアムでは、教学評価体制の基幹をなす IR ネットワークシステムの運営を行い、情報の一元管理、個別の大学での教育効果の測定および学生調査による連携大学間での「相互評価」の機能や機会を会員校に提供しています。

●共通学生アンケート調査について

共通学生アンケートは、大学 IR コンソーシアムが「学生調査」として設計したもので、授業経験や学習行動、知識・能力の獲得状況、英語運用能力のレベル、大学教育に対する満足度といった学生の認知的・情緒的側面を重視した調査項目で構成されています。大学 IR コンソーシアム会員校が共通のアンケートを継続して実施することで、学生調査の結果を大学 IR コンソーシアム会員校全体と比較でき、各大学の特徴（強み、弱み）を見出すことができます。

なお、本学では共通学生アンケートに独自項目を追加し、Web による回答で実施しています。

【学部生対象】

在学生アンケート 2023 実施中

KUIS での学生生活をより良くするための学生アンケートを 2016 年から実施しています。ぜひご協力ください。

昨年度は 1211 人からの回答があり、寄せられた声をもとに、学内施設の改善を行いました。





7号館 2階エグゼクティブ張替え

7号館3階 KUIS カフェテリア張替え

6号館2階学習支援デスクフィルム貼り

回答方法

該当する QR コードを読み取り、Google フォームで回答。
 ※KUIS メールにもお送りしています。
 ※回答するときは KUIS アカウント(学籍番号@kuis.ac.jp)へのログインが必要です。

1 年生用⇒



<http://bit.ly/>

2～4 年生用⇒



<http://bit.ly/>

実施期間: 2023 年 9 月 6 日(水)14:00～11 月 1 日(水)14:00



Your Voice Change KUIS

学生アンケート 2023 に寄せられた貴重なご意見をもとに改善しました！
 （アンケートにご協力賜り誠にありがとうございました。）

神田外語大学

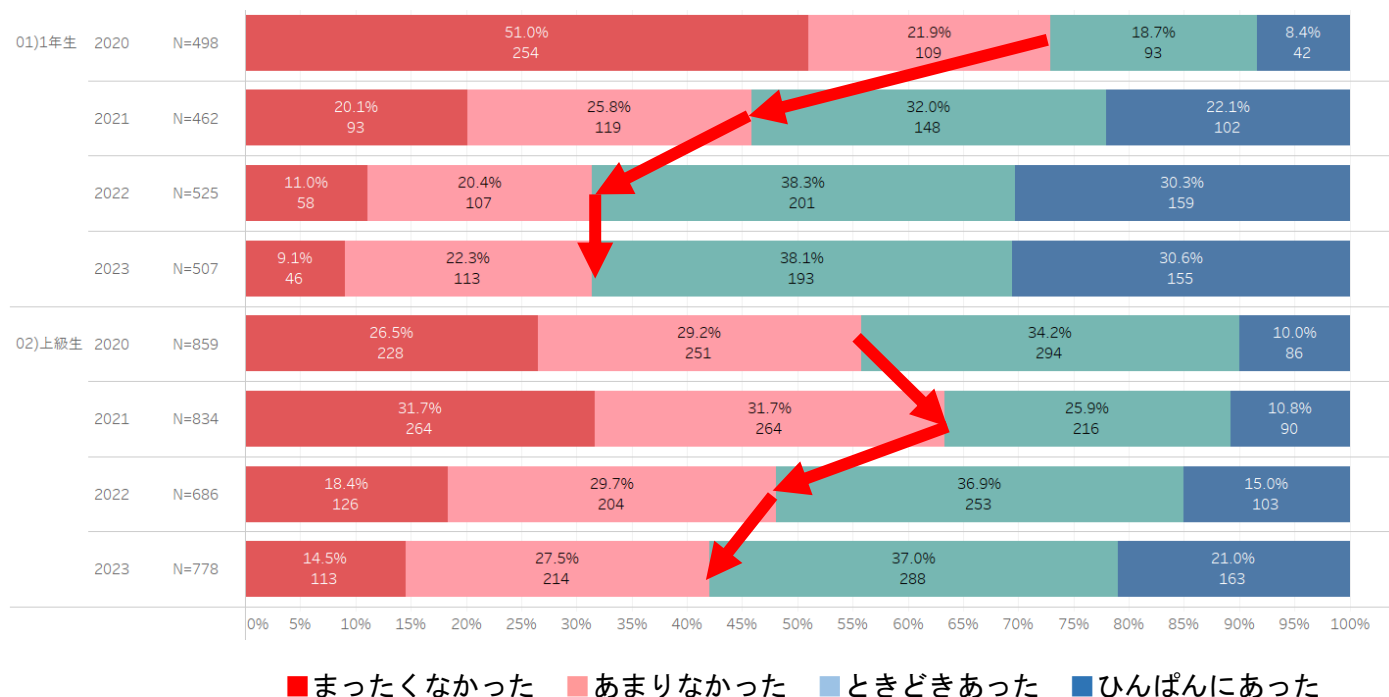
↑ステッカーを貼って回答を促進しました。

←学内ポータルにポスターを掲出してアンケート実施を周知しました。

●共通学生アンケートの集計結果 — 2020・2021・2022・2023 年度 — (抜粋)

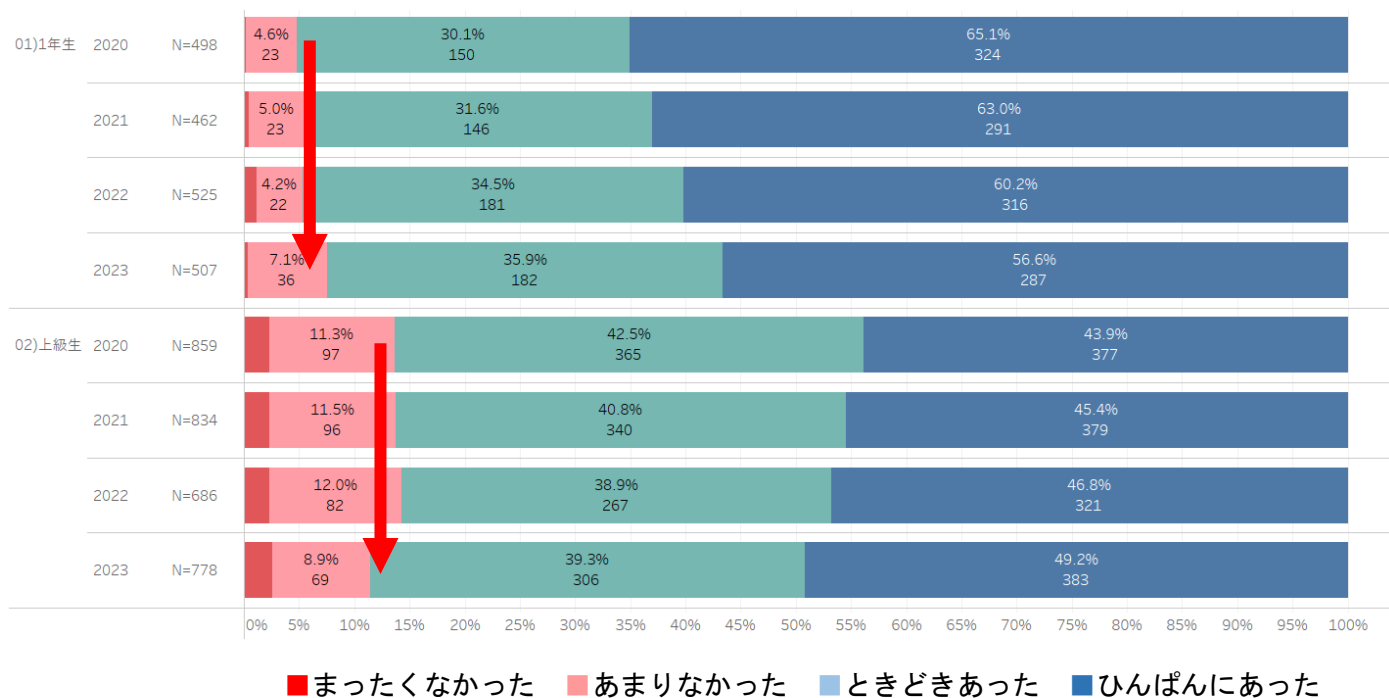
授業経験：実験、実習、フィールドワークなどを実施し、学生が体験的に学ぶ

⇒1 年生と上級生ともに 2020 年のコロナ禍から回復傾向、2019 年のコロナ前の水準に戻った。



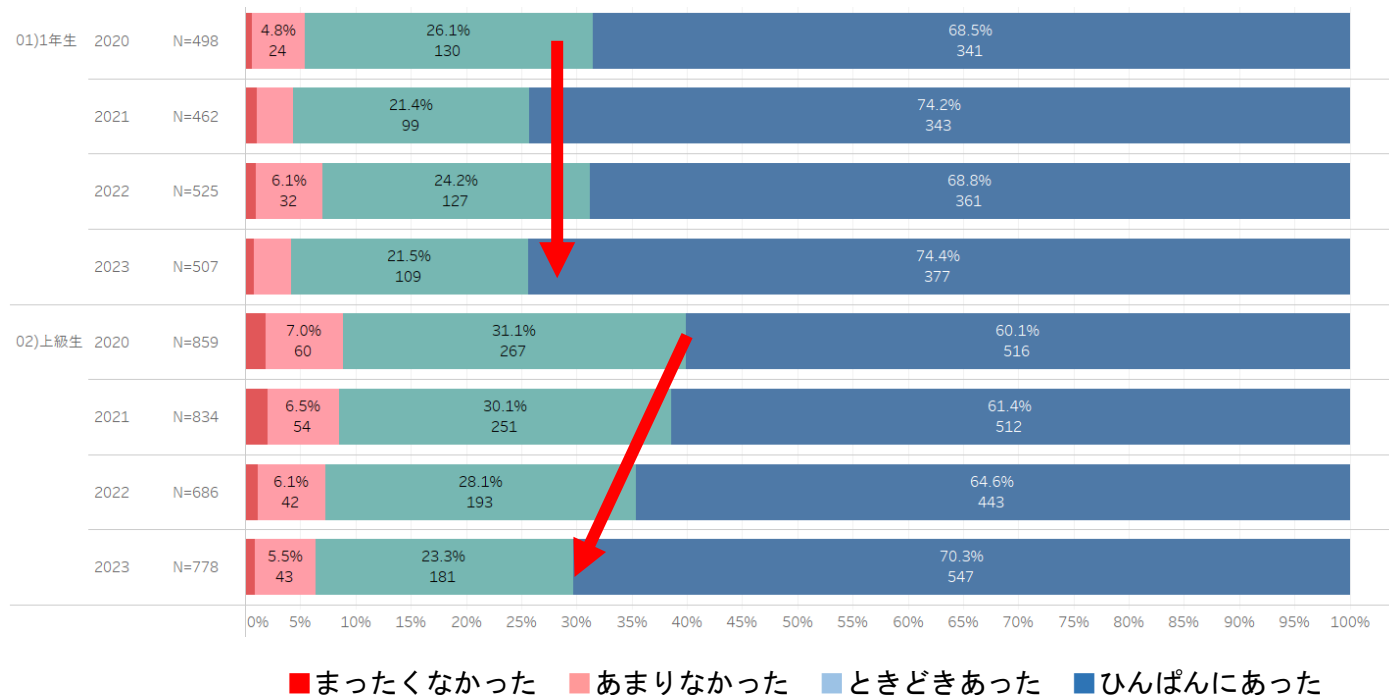
授業経験：教員が提出物に添削やコメントをつけて返却する

⇒コロナ前の 2019 年以前の状態に回復し、その後も良い状態を維持できている。



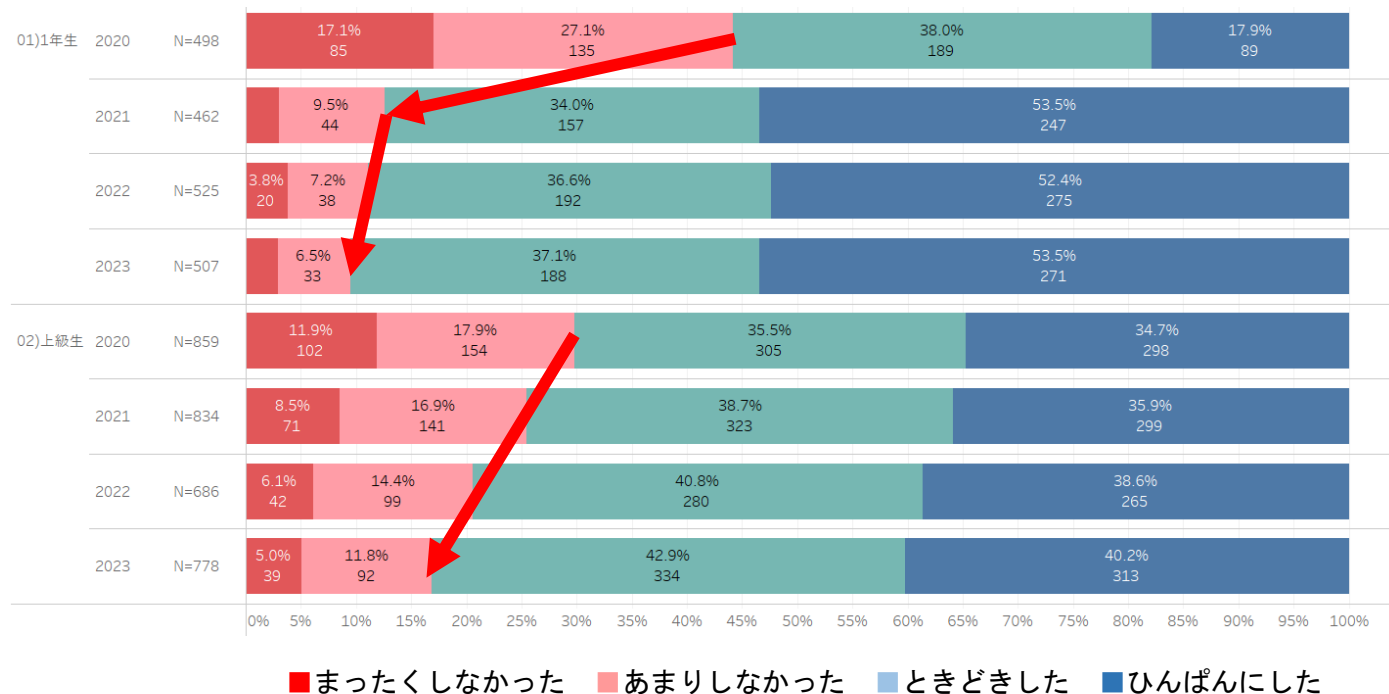
授業経験：授業中に学生同士が議論をする

⇒上級生は「ひんぱんにあった」が増加傾向。1年生は良い状態を維持し続けている。



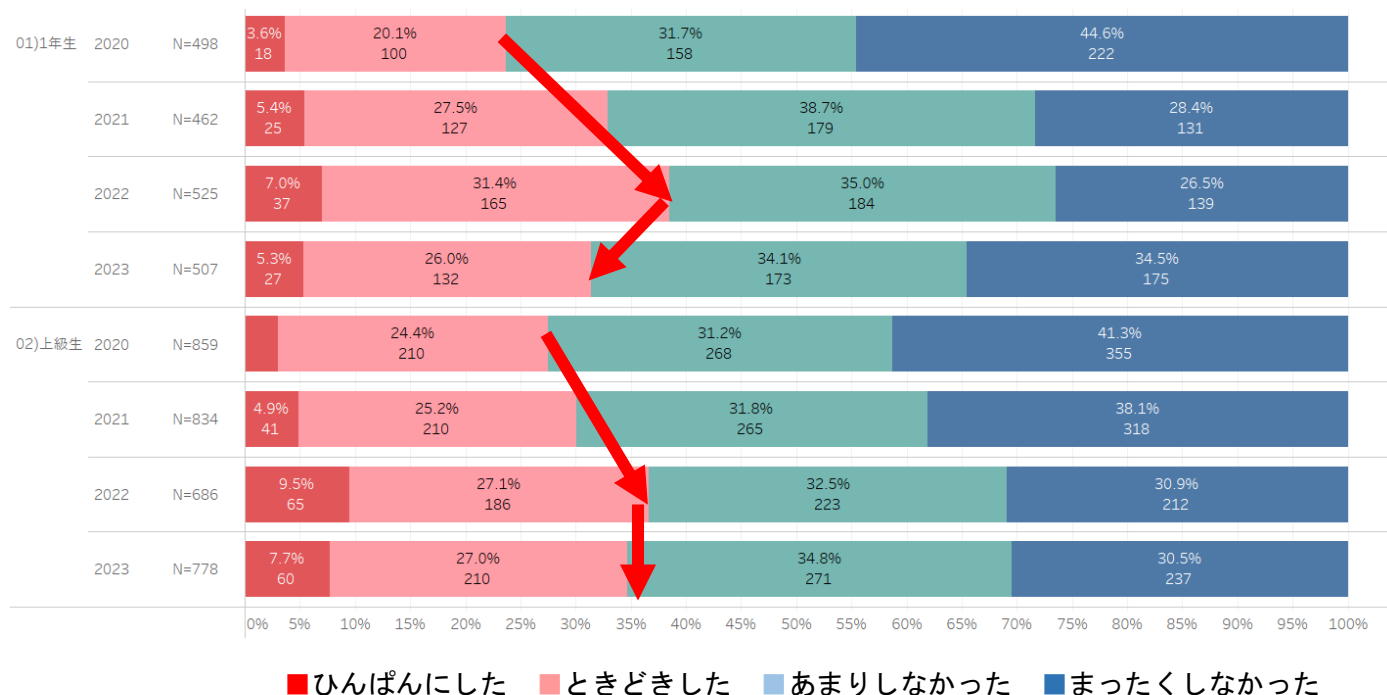
学習態度：授業時間外に、他の学生と一緒に勉強したり、授業内容を話したりした

⇒2020年から2021年にかけて1年生は急回復。2020年から2023年にかけて上級生も回復。



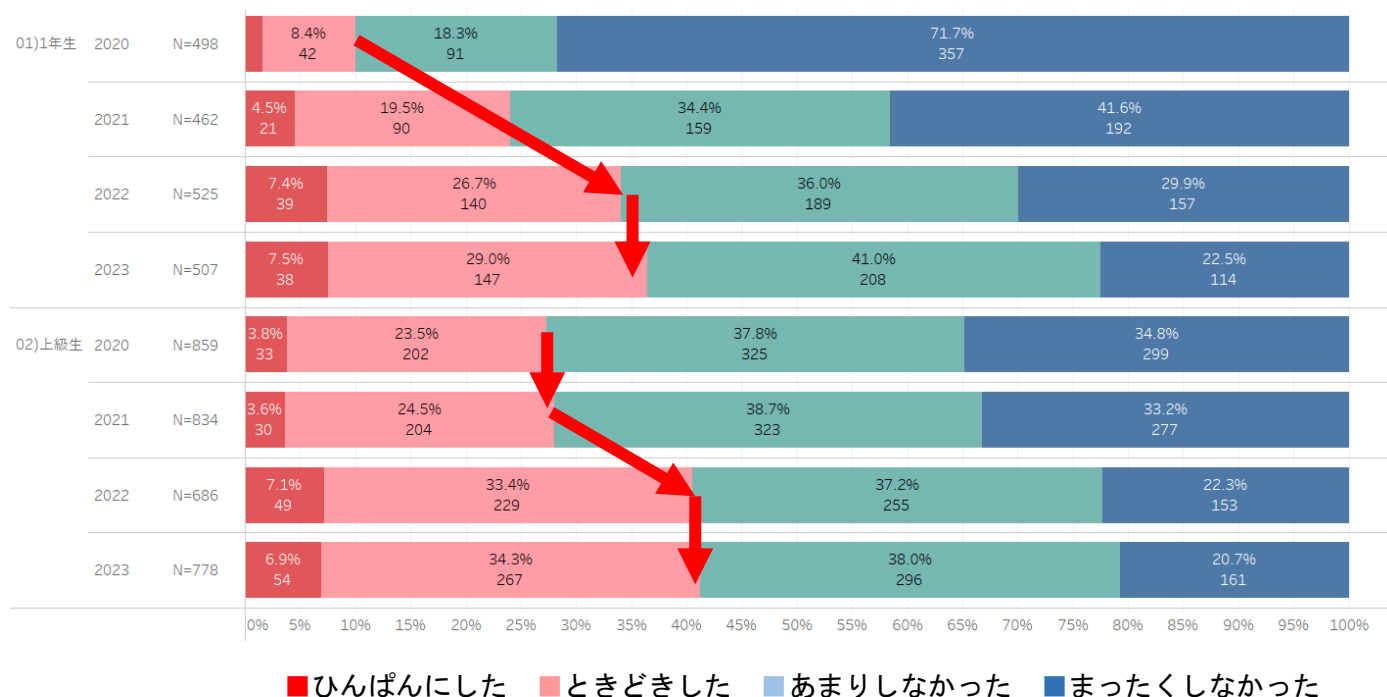
学習態度：提出期限までに授業課題を完成できなかった

⇒2020 年から 2021 年は、1 年生は増加、上級生は変わらず。



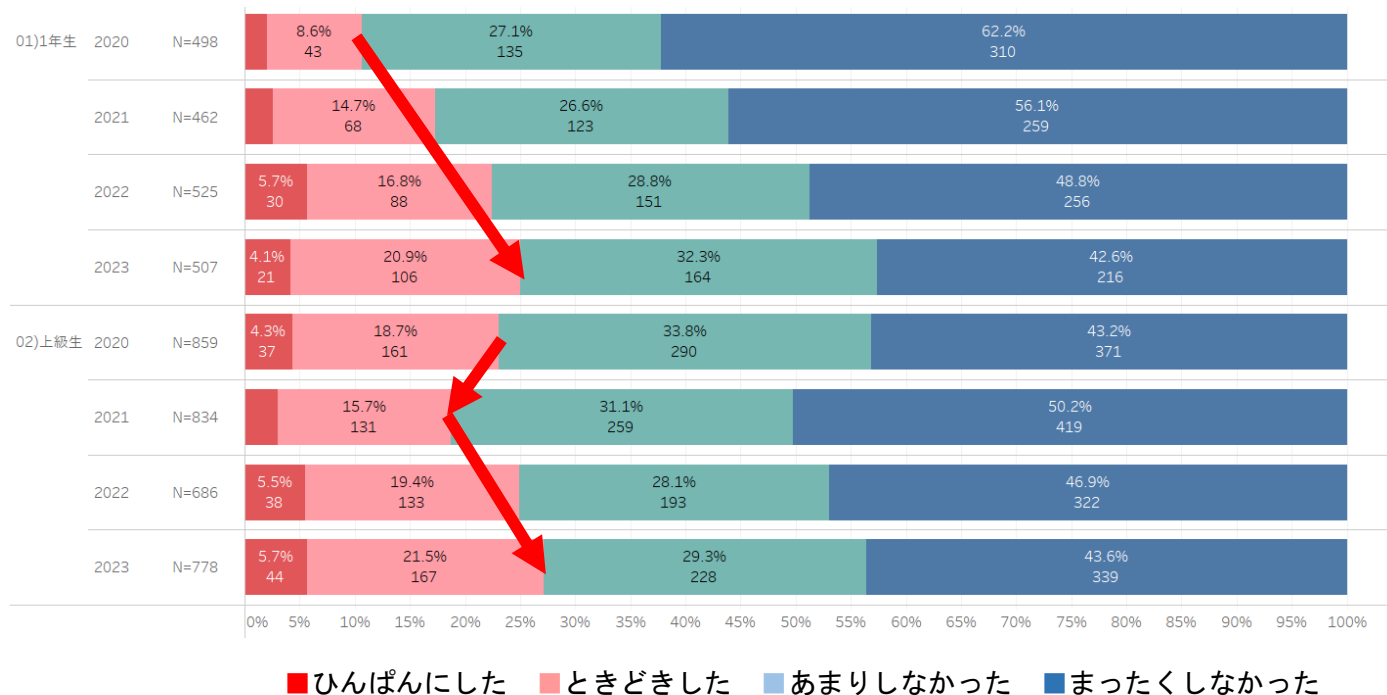
学習態度：授業に欠席した

⇒1 年生は 2020 年からの増加傾向。上級生も 2021 年以降から増加傾向。



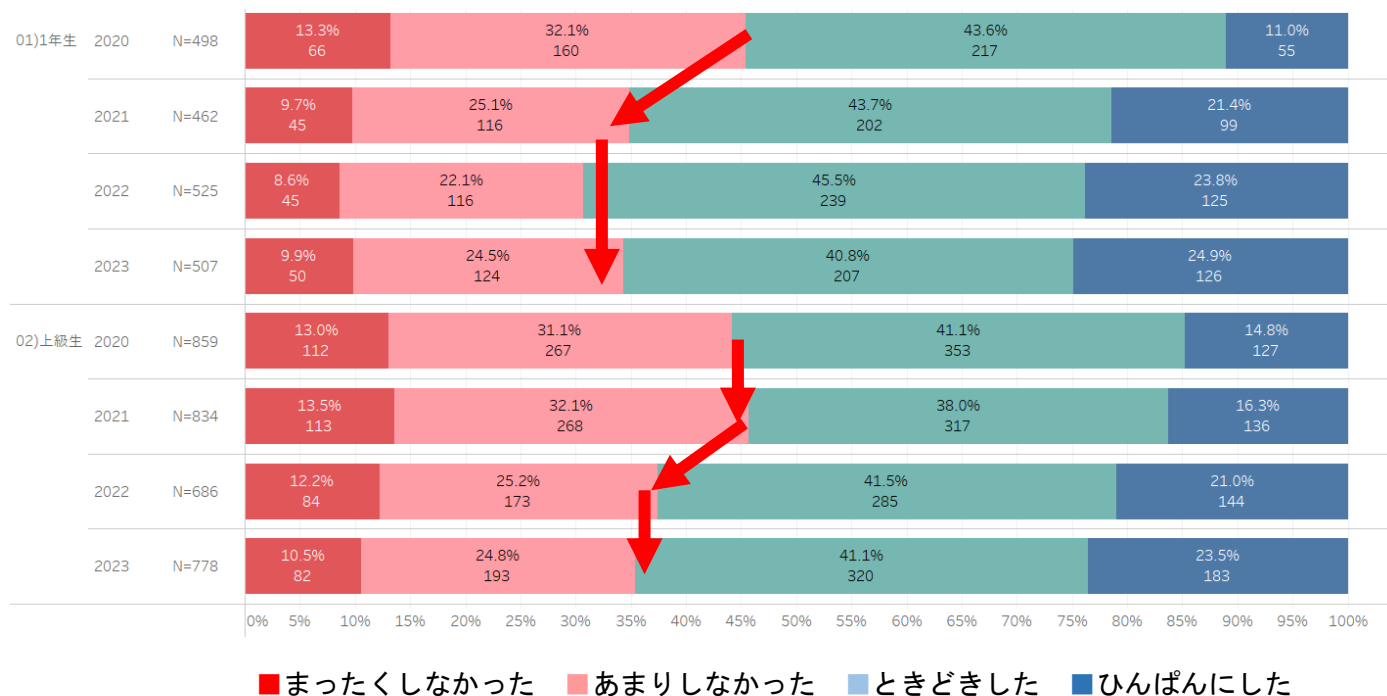
学習態度：授業に遅刻した

⇒1 年生は 2020 年から増加傾向。上級生も 2021 年以降から増加傾向。



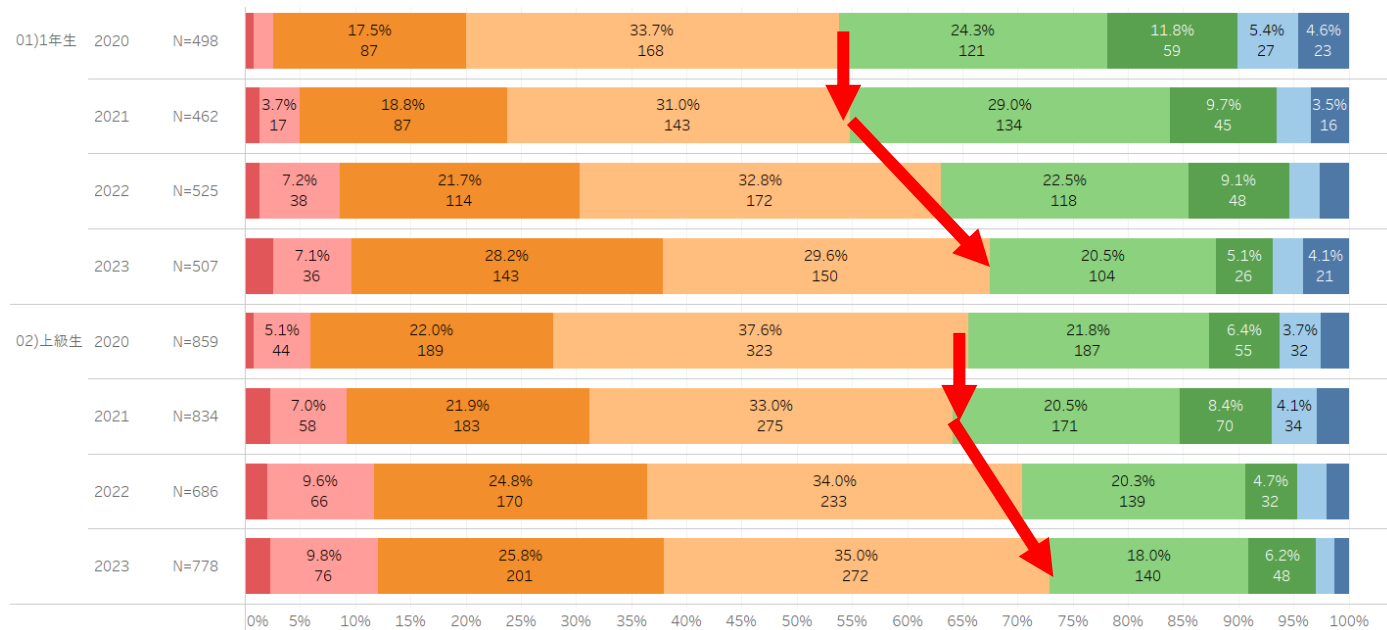
学習態度：教員に親近感を感じた

⇒1 年生は 2020 年から 2022 年にかけて増加し、上級生も 2021 年から 2022 年に増加。その後維持。



週あたりの活動時間：授業時間外に、授業課題や準備学習、復習をする

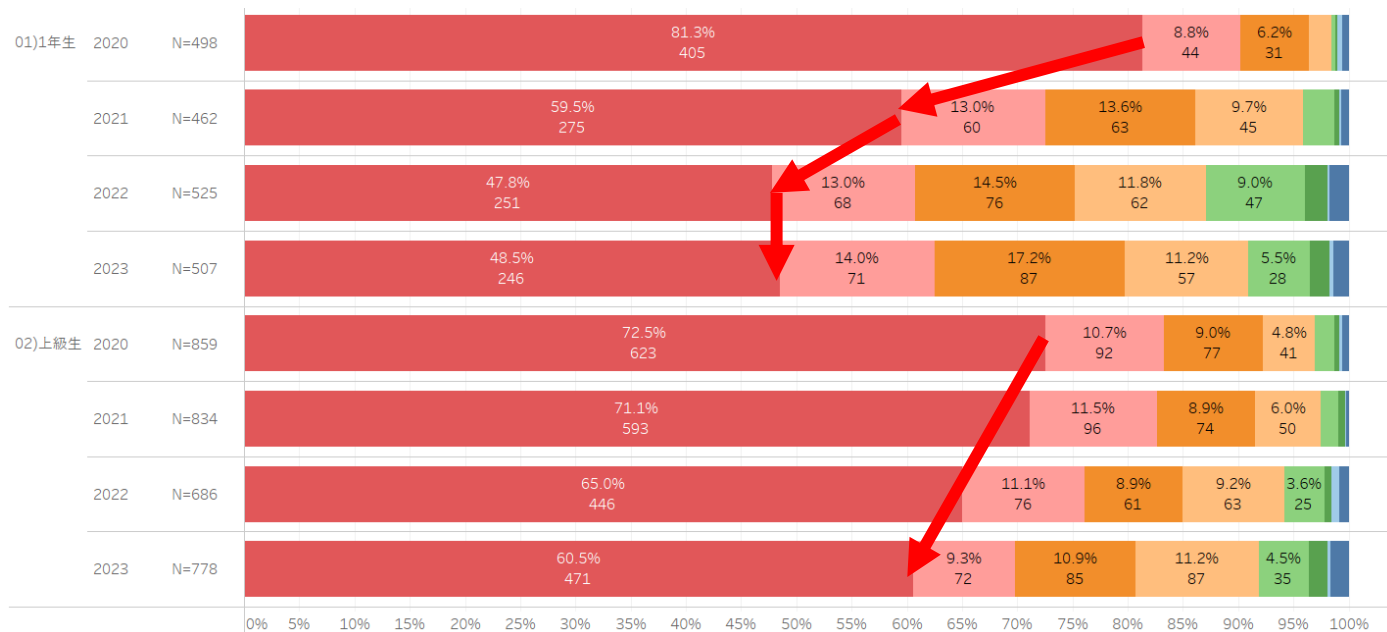
⇒2021 年以降は増加傾向、ほぼコロナ禍以前の水準に戻った。



■ 全然ない ■ 1 時間未満 ■ 1～2 時間 ■ 3～5 時間 ■ 6～10 時間 ■ 11～15 時間 ■ 16～20 時間 ■ 20 時間以上

週あたりの活動時間：部活動や同好会に参加する

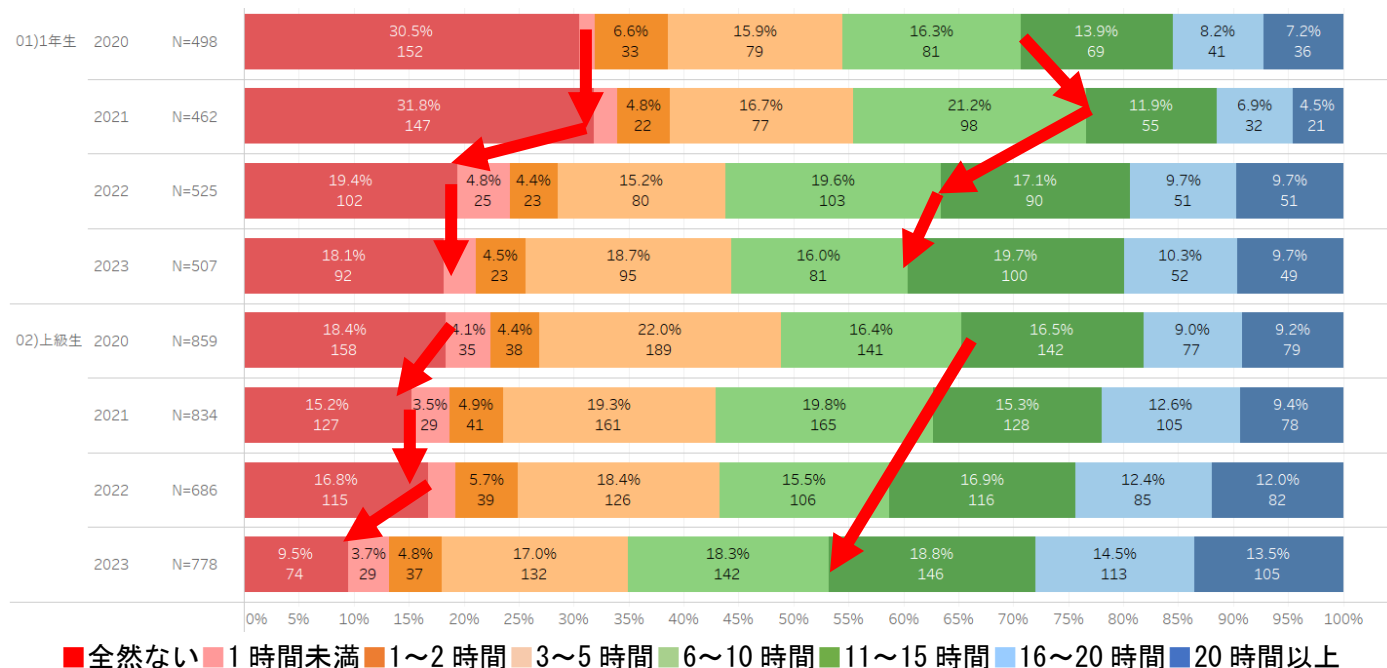
⇒2020 年以降は、1 年生は大幅に増加、上級生もコロナ禍以前に戻りつつある。



■ 全然ない ■ 1 時間未満 ■ 1～2 時間 ■ 3～5 時間 ■ 6～10 時間 ■ 11～15 時間 ■ 16～20 時間 ■ 20 時間以上

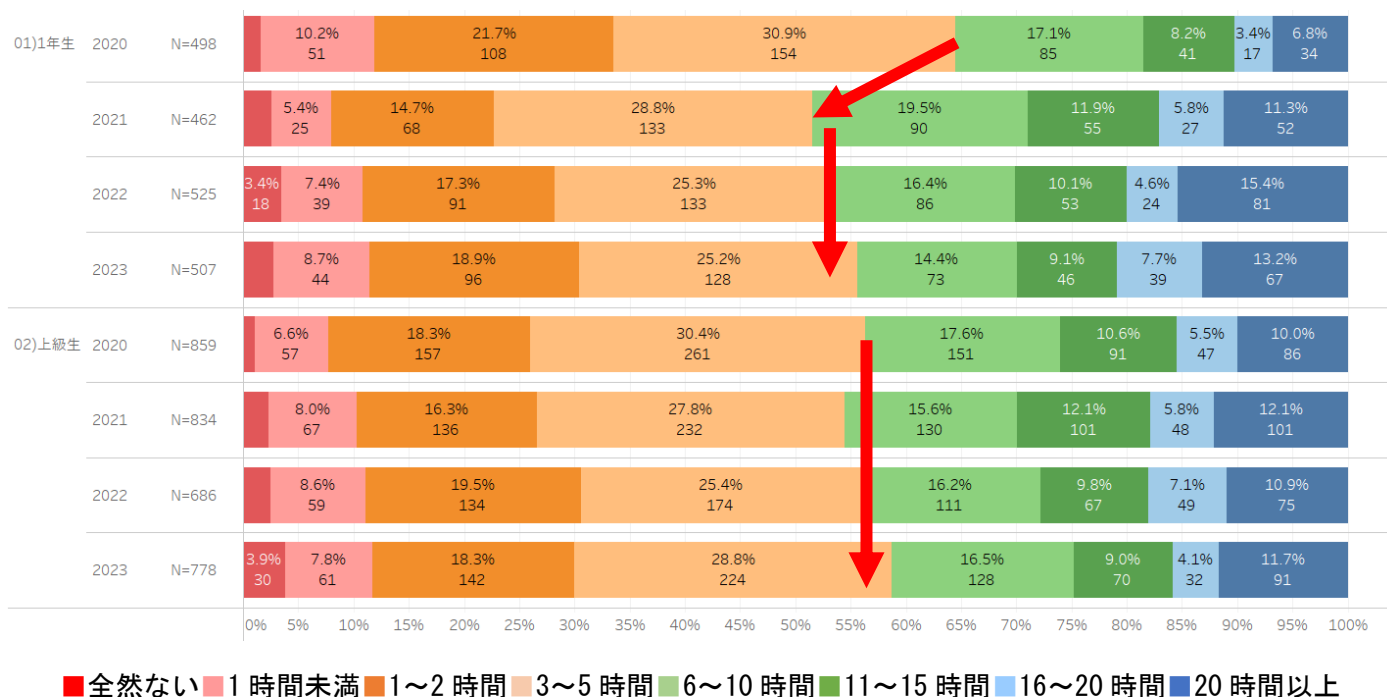
週あたりの活動時間：大学外でアルバイトや仕事をする

⇒1 年生はコロナ禍以前の水準にかなり近づいている。上級生はコロナ禍以前に戻りつつある。



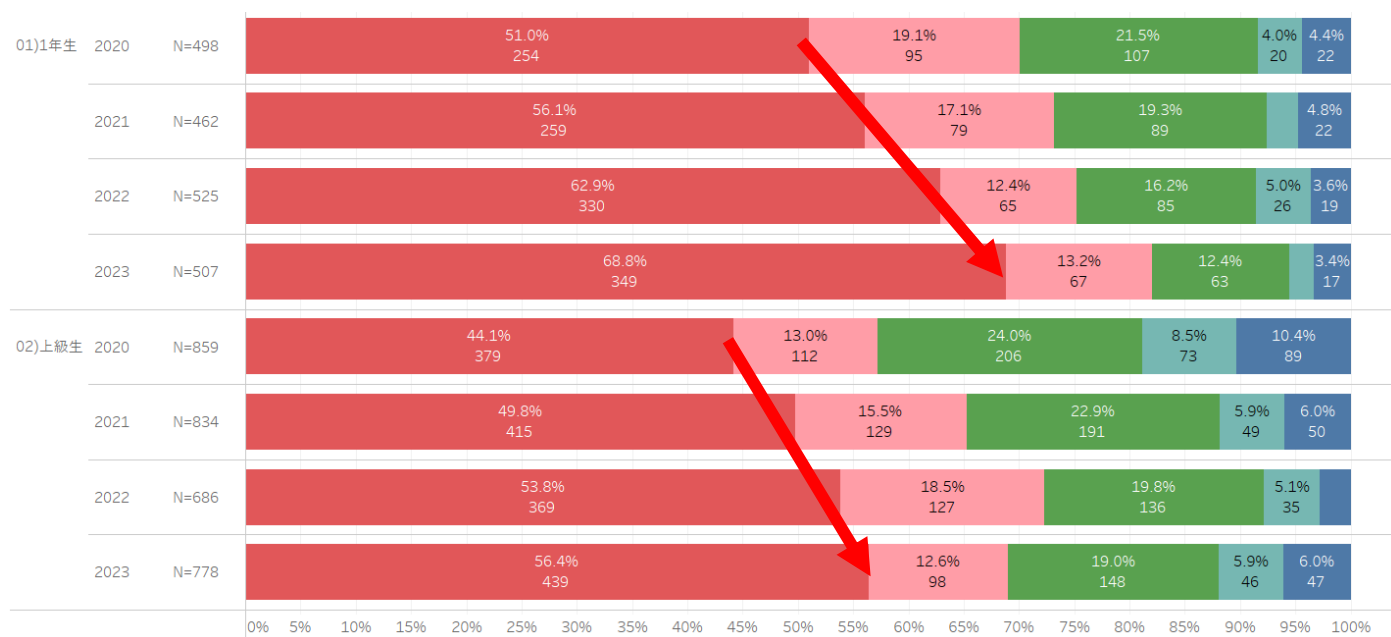
週あたりの活動時間：個人的な趣味活動をする（テレビやゲーム、映画鑑賞など）

⇒1 年生はコロナ前に戻ってきた。上級生についてはコロナ後も同じ傾向。大きな変化はなし。



渡航経験

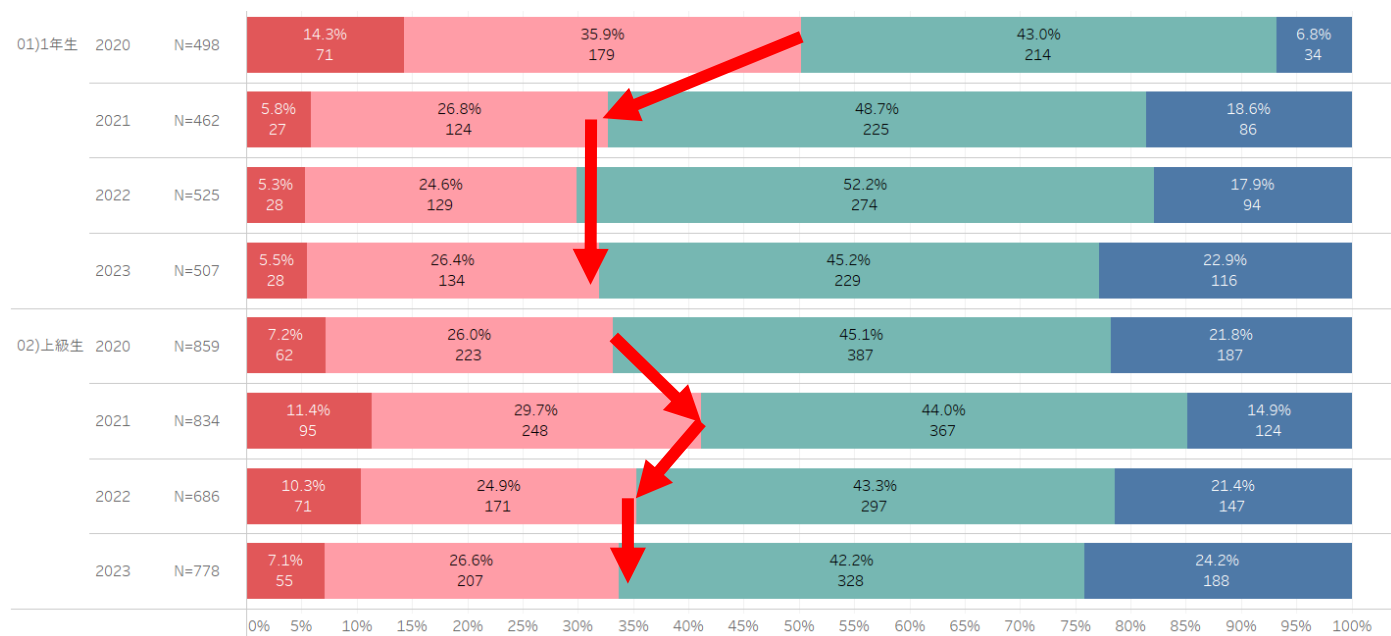
⇒ 渡航経験について「まったくない」と回答した学生が増加傾向。



■ 渡航したことはない ■ 10日未満 ■ 10日以上1ヵ月未満 ■ 1ヵ月以上6ヵ月未満 ■ 6ヵ月以上

大学生活への適応：大学教員と顔見知りになる

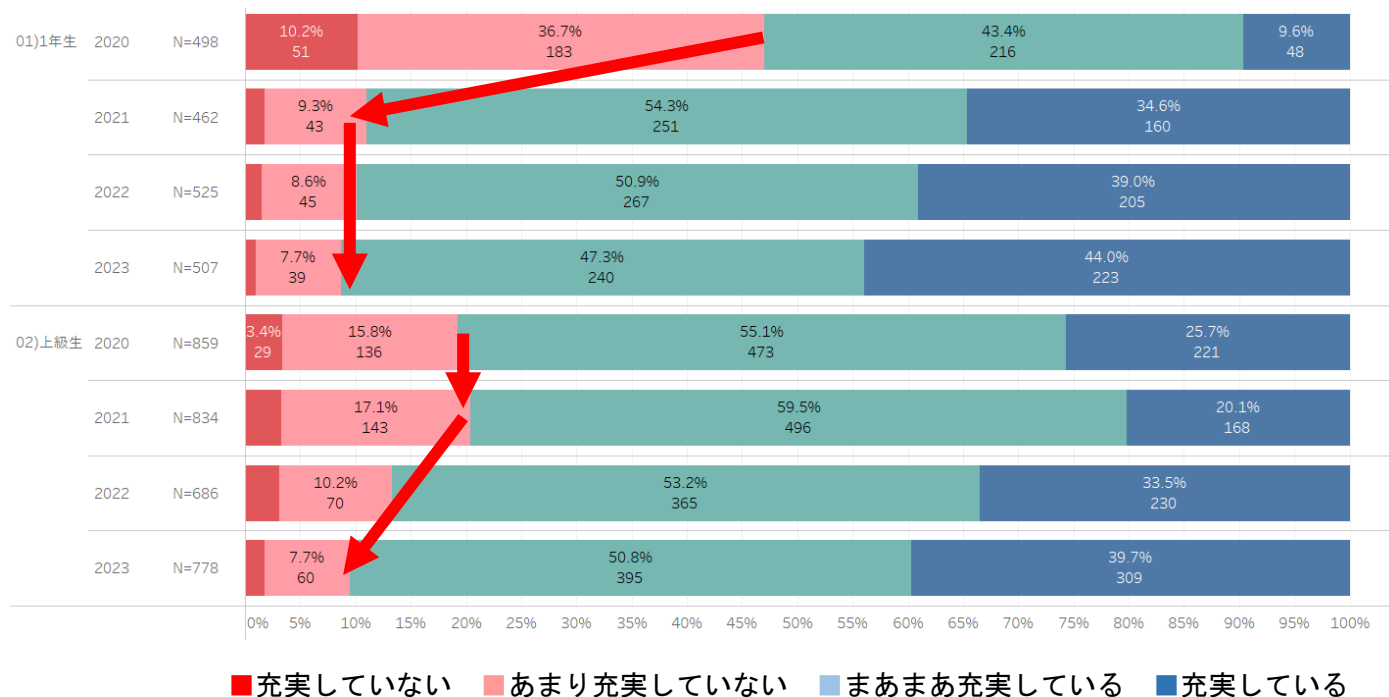
⇒ コロナ禍以前の水準に回復し、7割近くが教員と顔見知りになったと感じている。



■ まったくうまくいかなかった ■ あまりうまくいかなかった ■ まあまあうまくいった ■ とてもうまくいった

学生生活の充実度

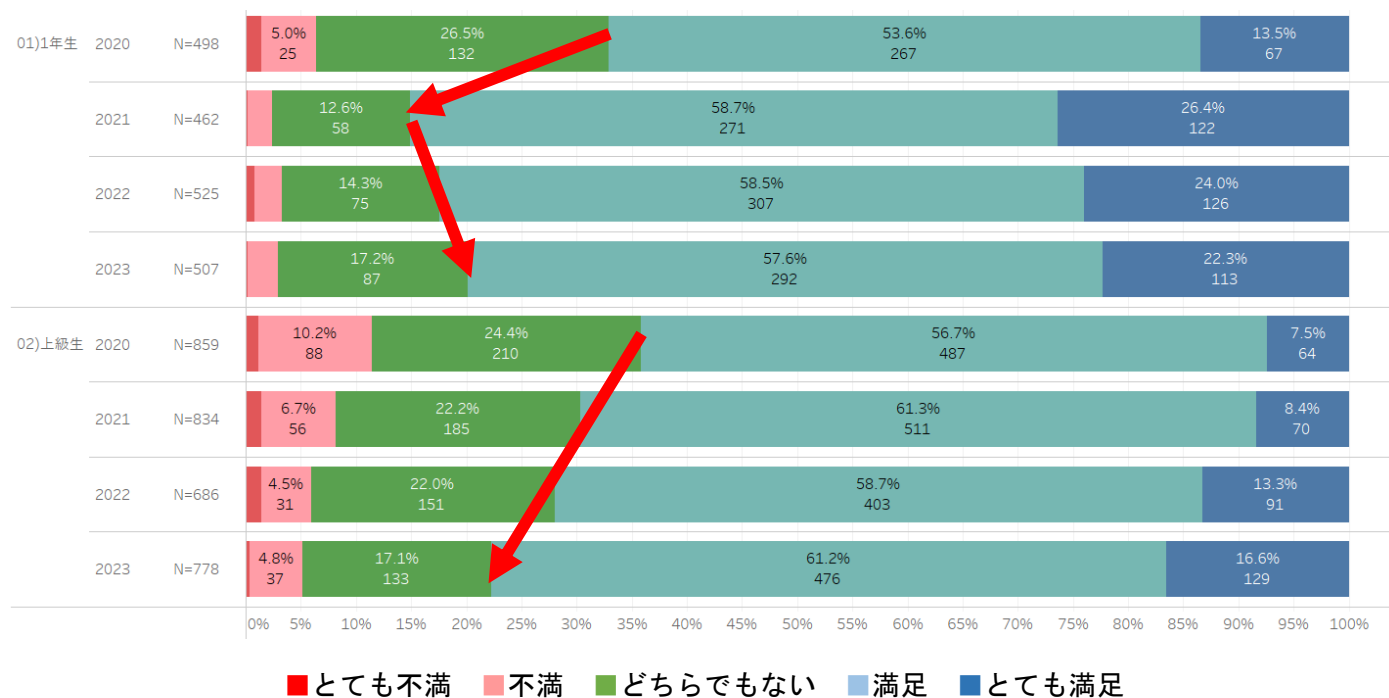
⇒1 年生は V 字回復し、上級生も回復。9 割前後が充実している、まあまあ充実していると回答。



大学教育への満足度：授業の全体的な質

⇒1 年生は 2020 年から 2021 年にかけて、とても満足、満足が約 18%増加し、その後は減少傾向。

上級生も 2020 年から 2023 年にかけて約 14%増加。上級生は 4 年間継続して増加傾向。



大学教育への満足度：大学 IR コンソーシアム全体平均との比較（上級生：2～4年生）

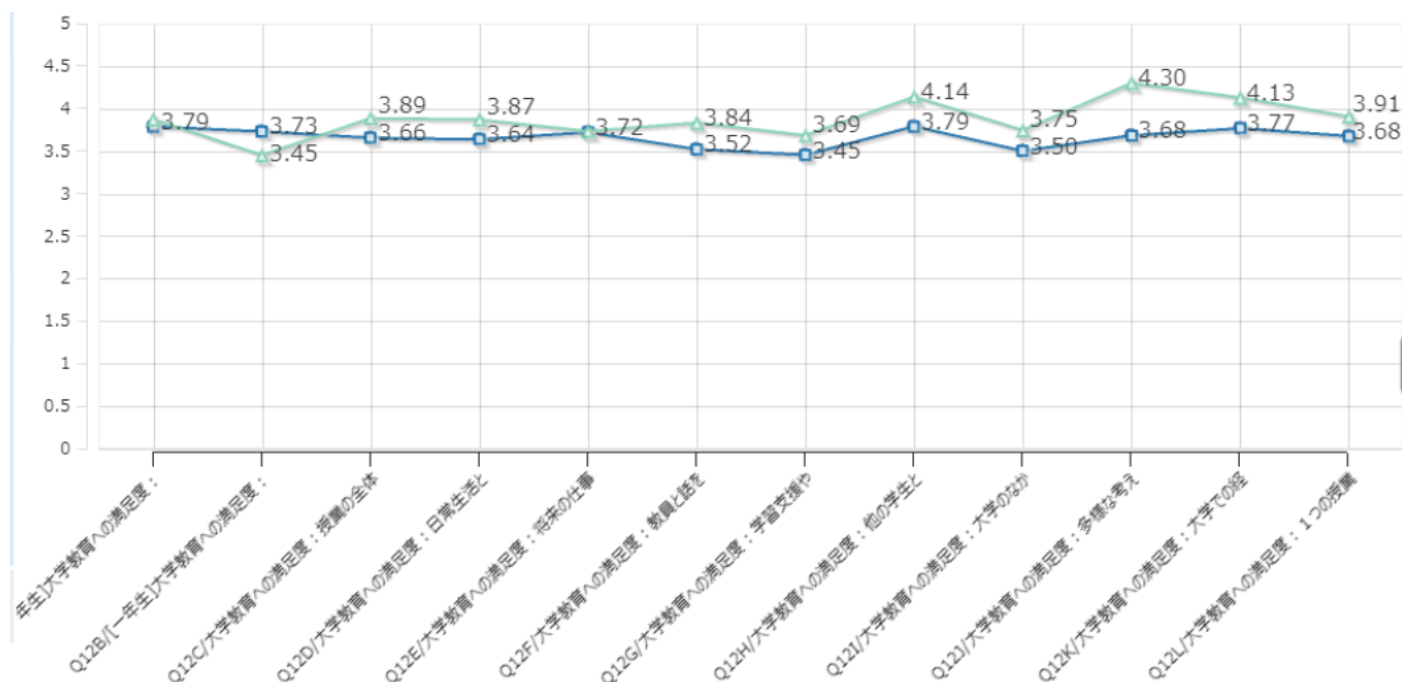
Q12. あなたは、本学の教育内容・環境にどれくらい満足していますか。

⇒大学 IR コンソーシアム（上級生調査）の全体平均スコアより、「J. 多様な考え方を認め合う雰囲気」、「K. 大学での経験全般」、「H. 他の学生と話をする機会」などは高い値となっている。
一方、「B. ゼミ（演習）などの教育内容」は、全体平均スコアより低い値となっている。

- A. [上級生]専門教育あるいは所属学科の授業
- B. [上級生]2 年次生または 3 年次生を対象としたゼミ（演習）などの教育内容※
（※加盟校や自学で、ゼミ・演習などの未履修者は、どちらでもないを回答していると推定）
- C. 授業の全体的な質
- D. 日常生活と授業内容との関連
- E. 将来の仕事と授業内容の結びつき
- F. 教員と話をする機会
- G. 学習支援や個別の学習指導
- H. 他の学生と話をする機会
- I. 大学のなかでの学生同士の一体感
- J. 多様な考え方を認め合う雰囲気
- K. 大学での経験全般について
- L. 1 つの授業を履修する学生数

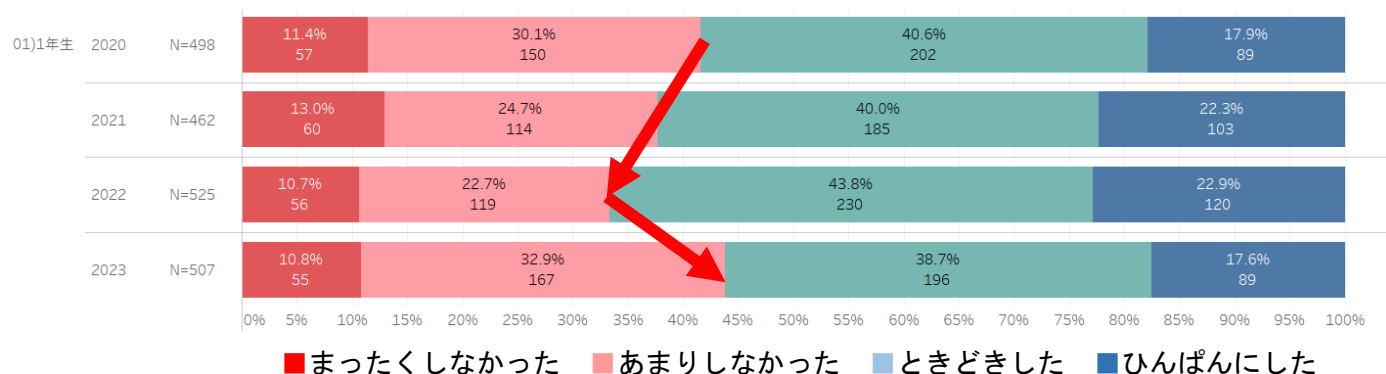
Q12. 教育への満足度

■ 2023 年 IR コンソーシアム加盟校全体、▲ 2023 年自学



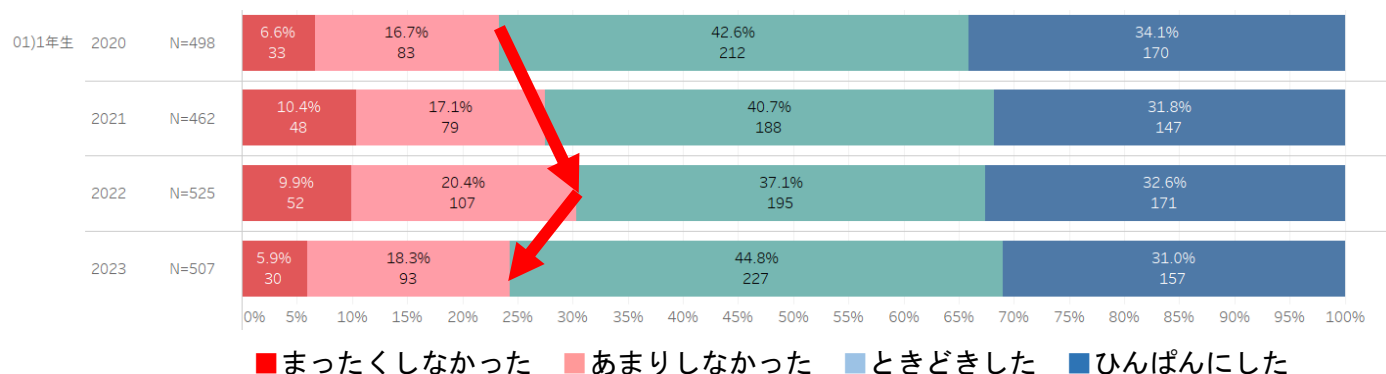
高校3年次の学習経験：インターネット上の情報が事実かどうか確認した。

⇒2020年から2022年は、ひんぱんにした、ときどきしたが増加。2023年は2020年より約3%減少。



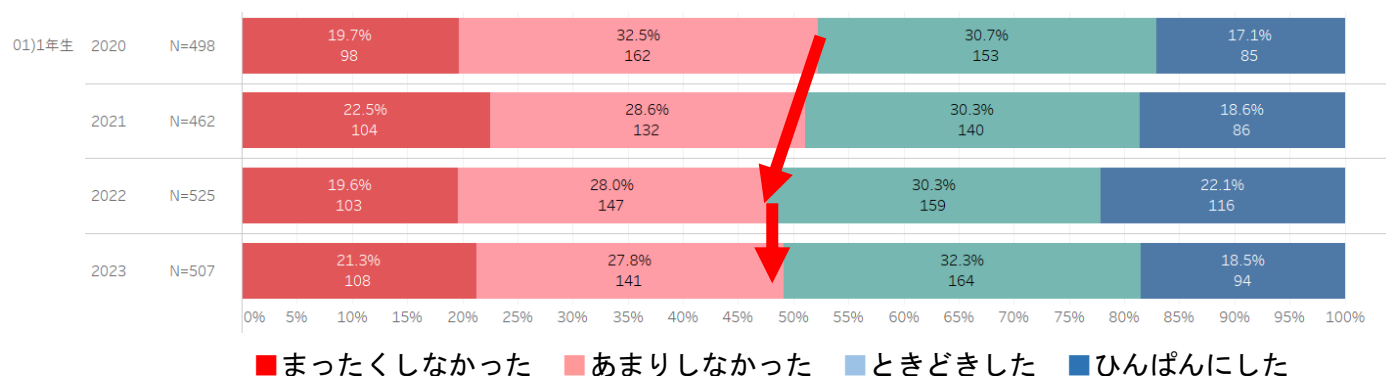
高校3年次の学習経験：授業の予習や復習、宿題をした

⇒2020年から2022年は減少傾向、2022年から2023年は一転して増加。



高校3年時の学習経験：読書をした（マンガ・雑誌を除く）

⇒2020年から2022年は、ひんぱんにした、ときどきしたが増加傾向。2023年は維持。



卒業生アンケート集計結果 —2023 年度—（抜粋）

●本学における卒業生アンケート実施状況

期 間 : 2023 年 12 月 1 日（金）～2024 年 2 月 22 日（木）

対 象 : 卒業生

有効回答数 : 235 件（2022 度 94 件、2021 年度 126 件）

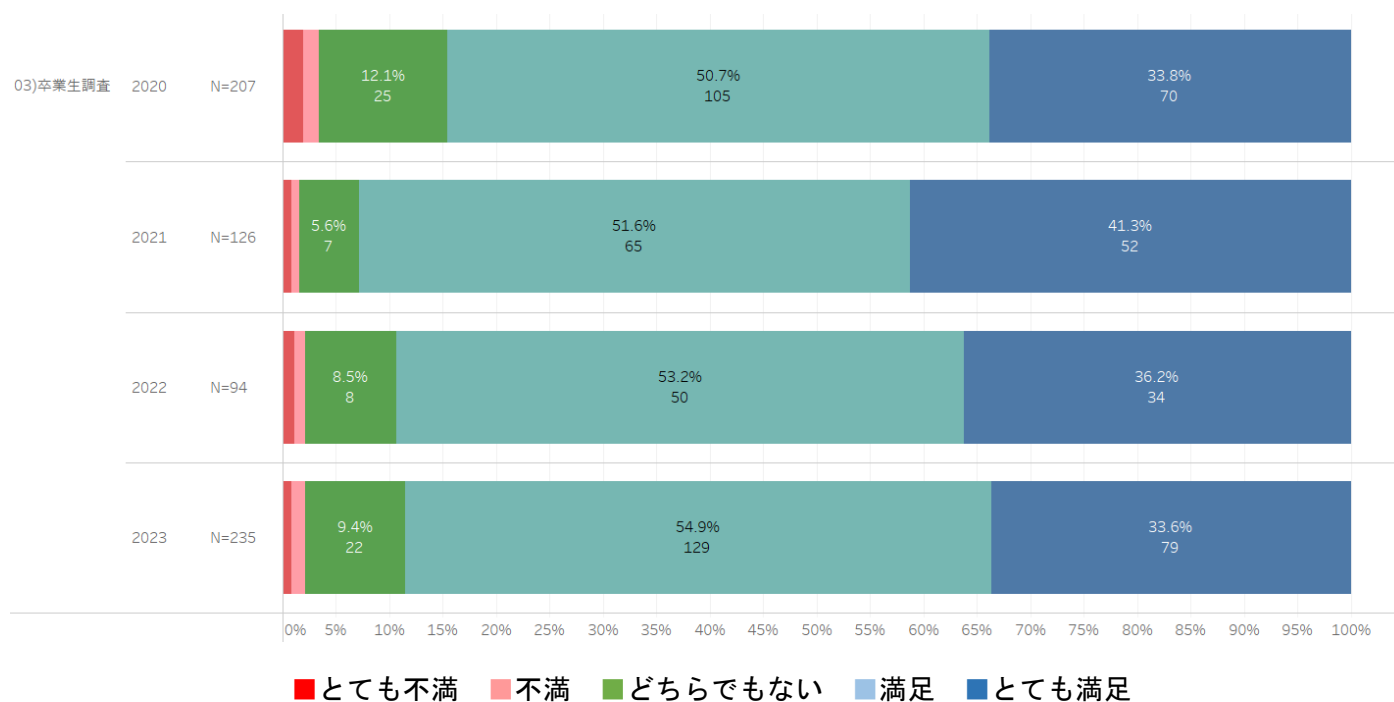
調査方法 : グーグルフォームを利用した Web アンケート

回答所要時間 : 約 6 分

内 容 : IR コンソーシアム共通、満足度（教育・研究／学生生活）、大学卒業後の仕事について、社会で求められる能力など。

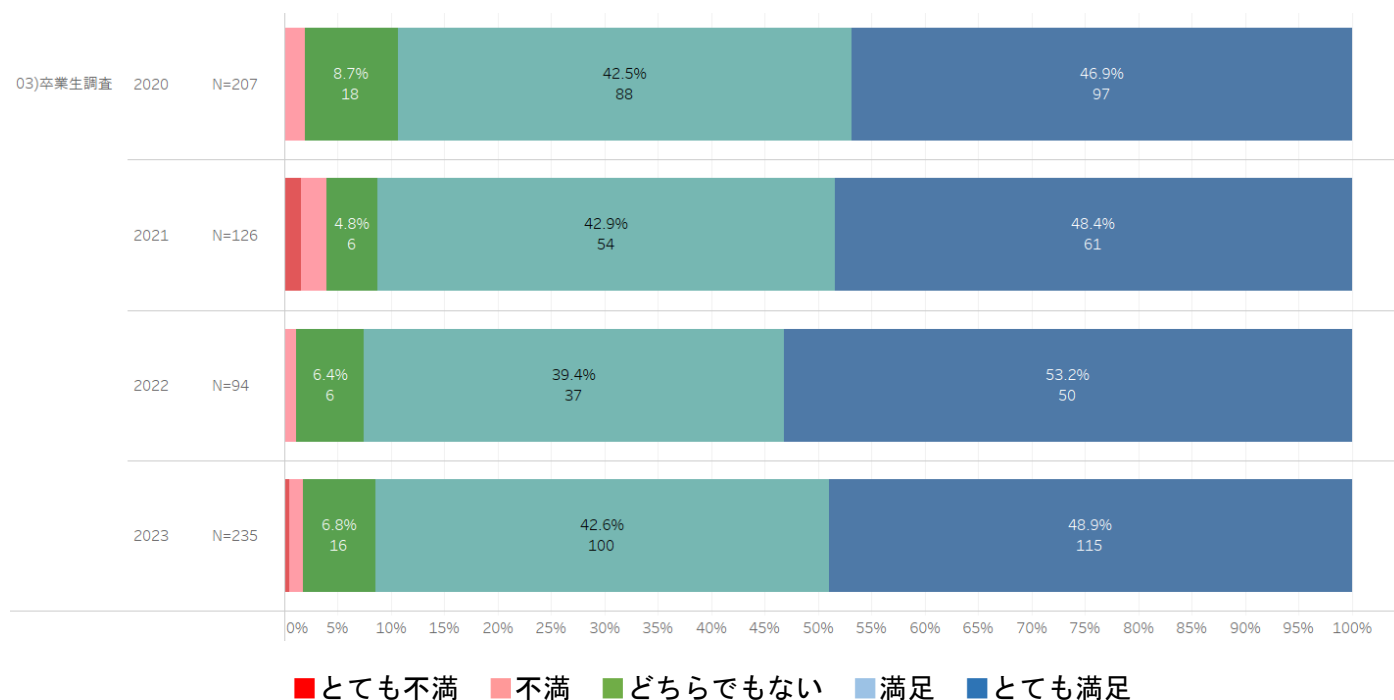
教育・研究の満足度

⇒約 9 割が満足（とても満足＋満足）



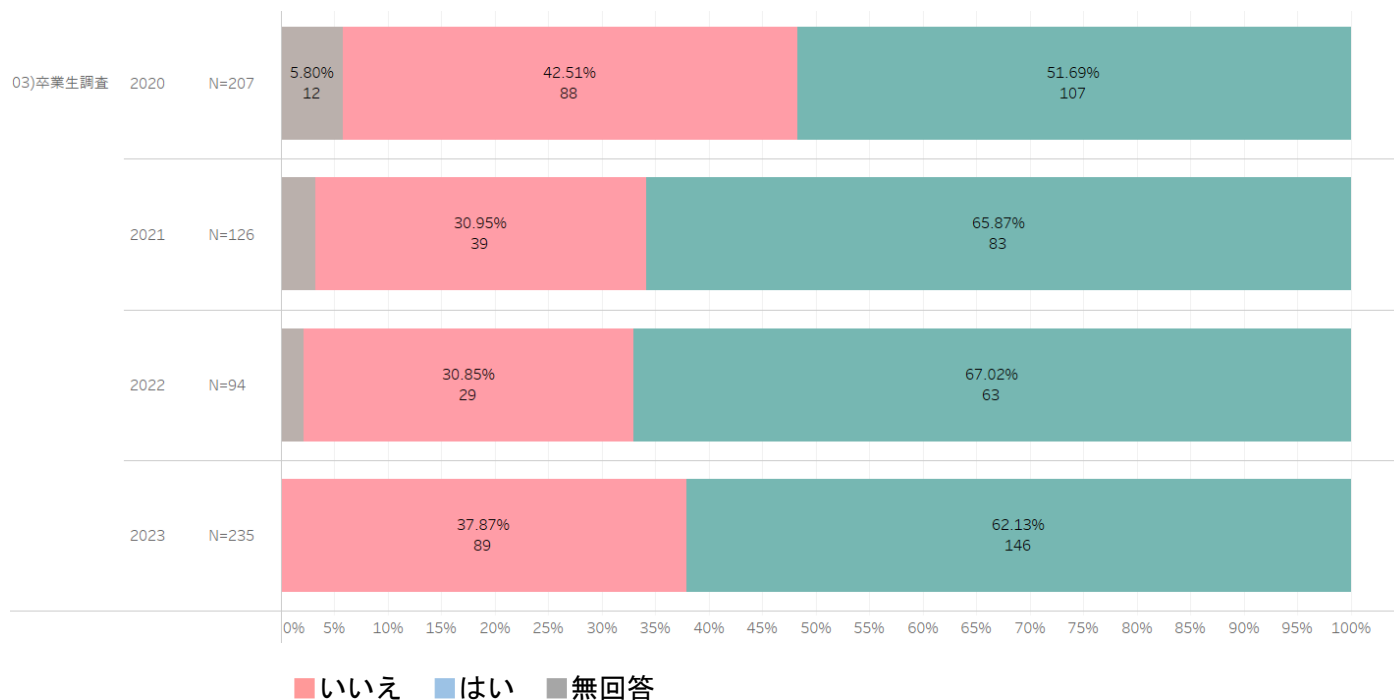
生活全般の満足度

⇒約 9 割が満足（とても満足＋満足）



外国語を使用して、会話や議論をする必要がある

⇒約 6 割が外国語を使用して、会話や議論をする必要がある

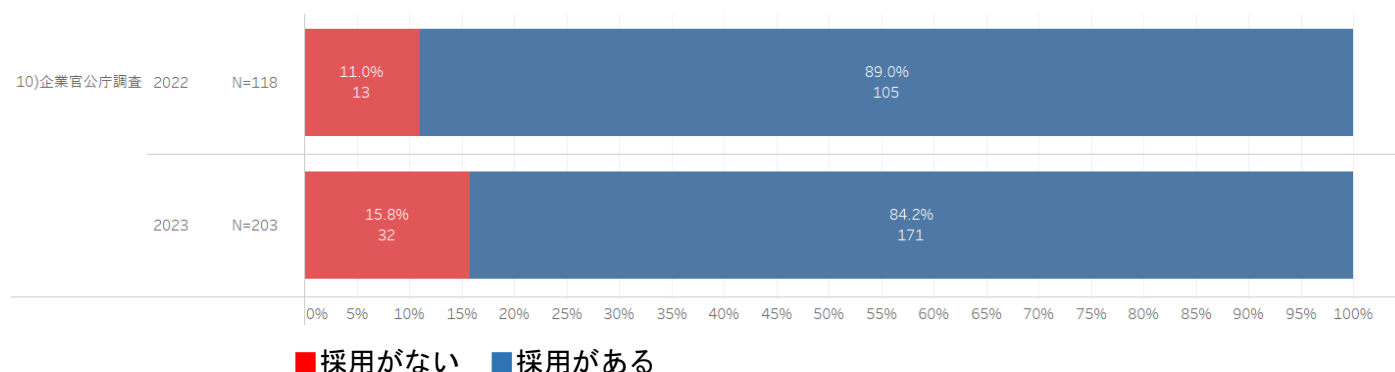


企業アンケート集計結果 —2024 年 1～2 月—（抜粋）

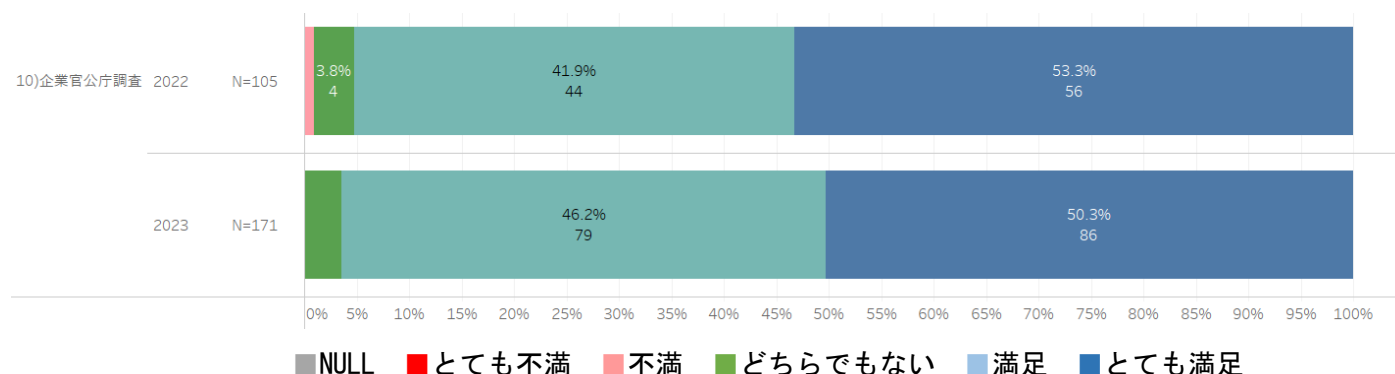
●企業アンケートの実施状況

期 間 : 2024 年 1 月 17 日（水）～2024 年 2 月 14 日（水）
 対 象 : 本学の会社説明会などに参加する企業・官公庁及びキャリアタスに登録の企業 738 社。
 有効回答数 : 203 件（2022 度 118 件）
 調査方法 : グーグルフォームを利用した Web アンケート
 回答所要時間 : 約 8 分
 内 容 : 入社時に必要とされる英語力や本学卒業生に対する企業の評価をアンケート調査した。

（本学の会社説明会に参加した企業のうち）過去に神田外語大学の学生を採用したことはありますか
 ⇒84%が採用という結果。

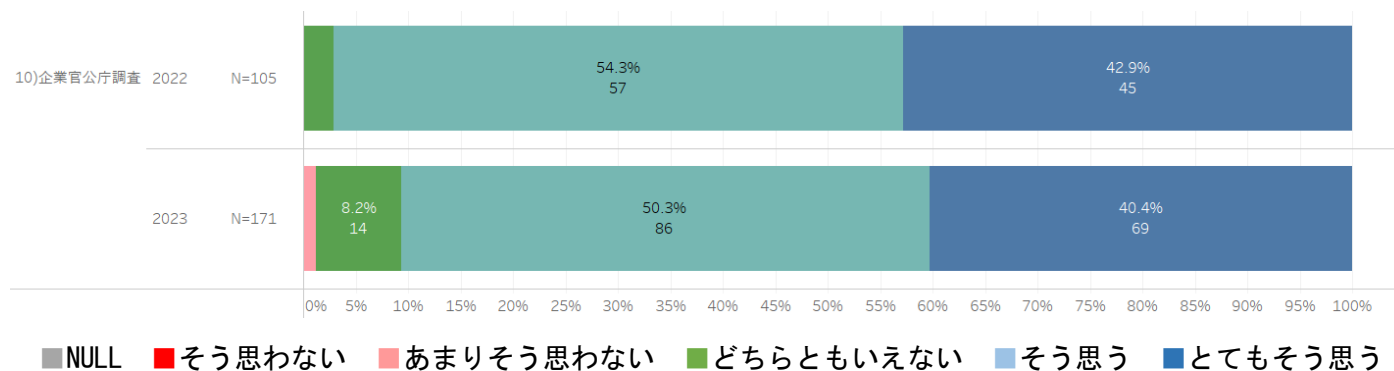


過去に採用した神田外語大学の学生にどのくらい満足していますか
 ⇒2022 年、2023 年ともに、とても満足、満足が 95%前後。



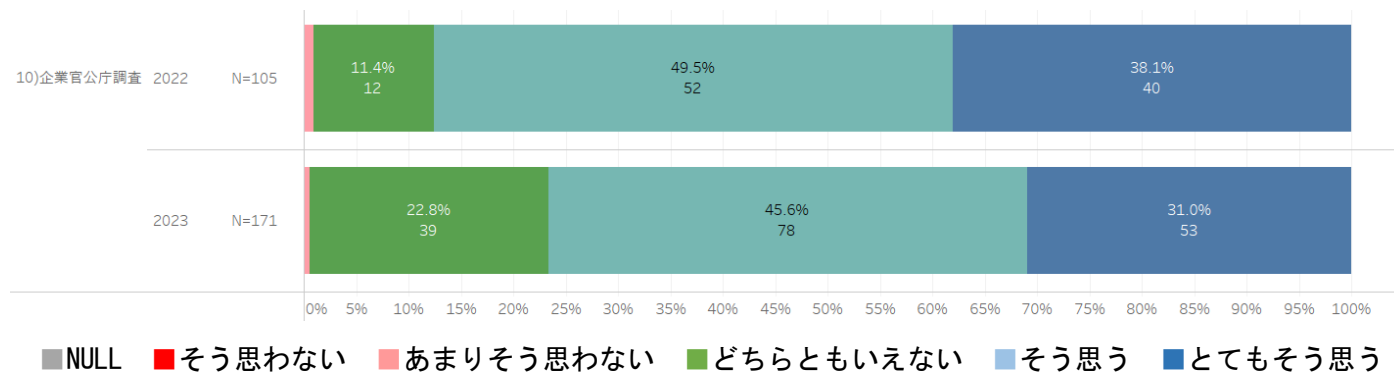
身についていると思う能力：コミュニケーションの能力

⇒とてもそう思う、そう思うが 91%前後（昨年に比べ 6.5%減少）。



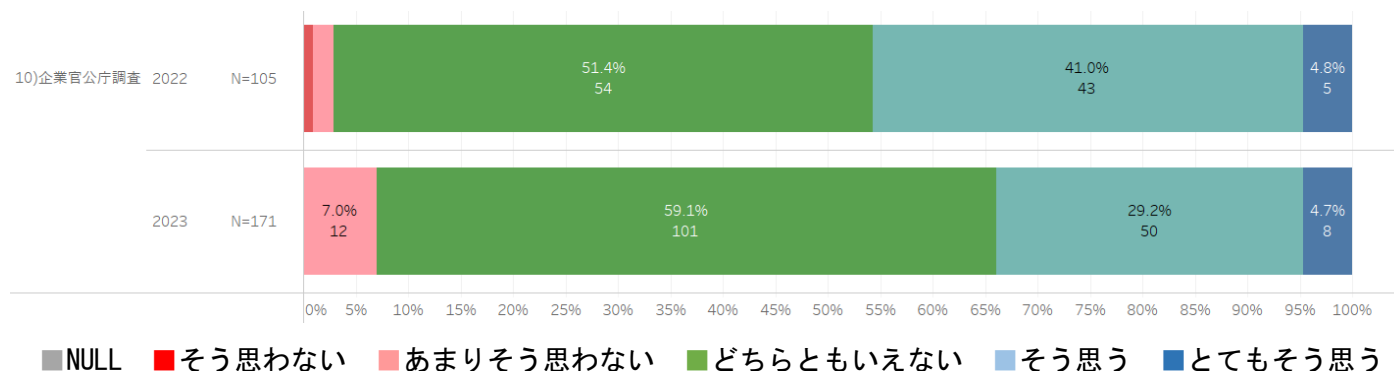
身についていると思う能力：外国語の運用能力（英語）

⇒とてもそう思う、そう思うが 77%前後（昨年に比べ 11%減少）。



身についていると思う能力：データの運用能力

⇒とてもそう思う、そう思うが約 40%（昨年に比べ約 12%減少）。

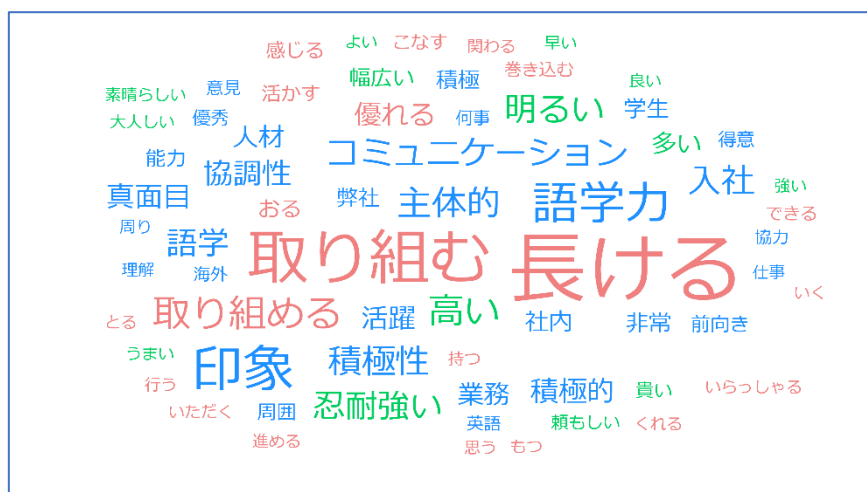


過去に採用した神田外語大学の学生の印象（自由記述の回答に書かれたコメントから抽出）

※ユーザーローカル AI テキストマイニングによる分析 (<https://textmining.userlocal.jp/>)

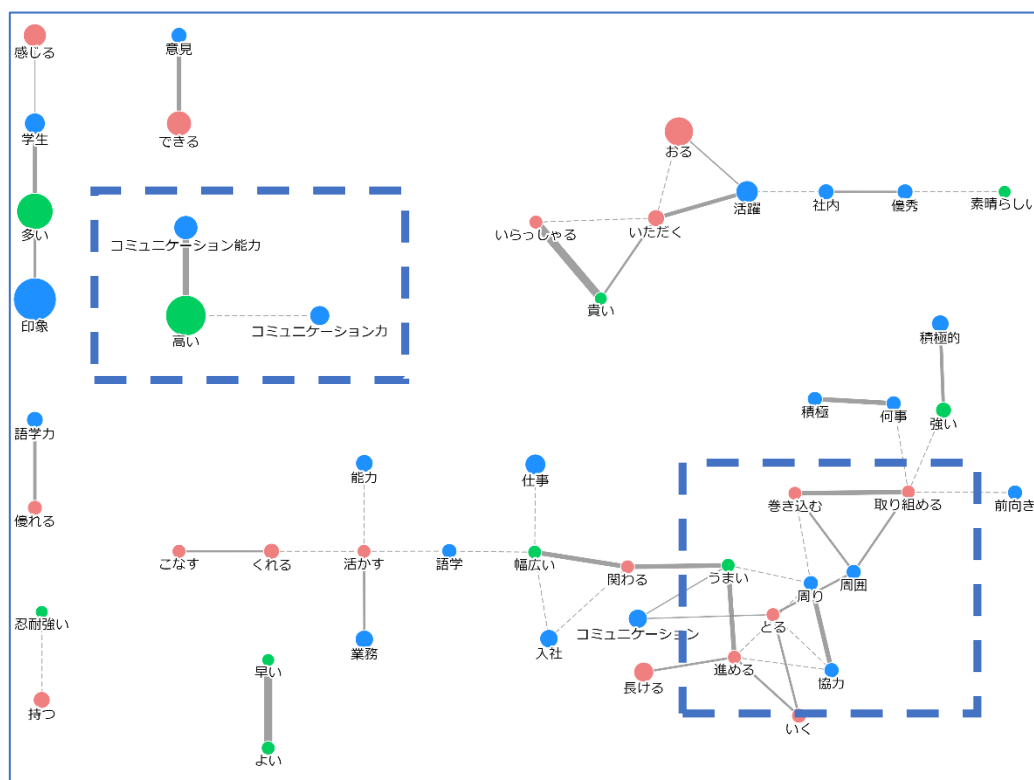
ワードクラウド

⇒名詞は、語学力、コミュニケーション、積極性・主体的などが見られる、
動詞は、長ける、取り組むなどの順であった。



共起ワード

⇒コミュニケーション（能力、力）・高いなどとの関連、
 周囲（周り）・巻き込む・取り組める・協力との関連が見られた。



AI 要約（ChatGPT 機能より引用）、ダイジェスト（5 行まとめ）

⇒主体性があり、社交的な印象です。

コミュニケーション能力が高く、場を和ませてくれる。

コミュニケーションが取れて積極的な印象です。

頭脳明晰で異文化理解力が高く、語学力が堪能。

主体的に周囲を巻き込みながら取り組める印象です。

文章要約

⇒真面目で誠実な印象を持つ学生や社会人が多く、異文化への理解やコミュニケーション能力が高い人材が多い印象です。特に社会課題への興味や行動力が高く、マーケティングやテクノロジーへの理解も深い人材が育っていると感じられます。また、コミュニケーション能力やリーダーシップ力があり、協力して業務を進める姿勢が強い人材が多いという印象を受けました。語学力や行動力も高く、チャレンジ精神やポジティブな考え方を持つ人材が多いようです。

卒業時アンケート集計結果 —2024 年 3 月—（抜粋）

●本学における卒業時アンケート実施状況

期 間 : 2024 年 3 月 20 日（水）～2024 年 3 月 26 日（火）

対 象 : 学部卒業時学生

有効回答数 : 339 件、回答率 36.2%、3 月卒業者数 936 名。

（2022 年度：720 件、回答率 77.2%、3 月卒業者数 933 名）

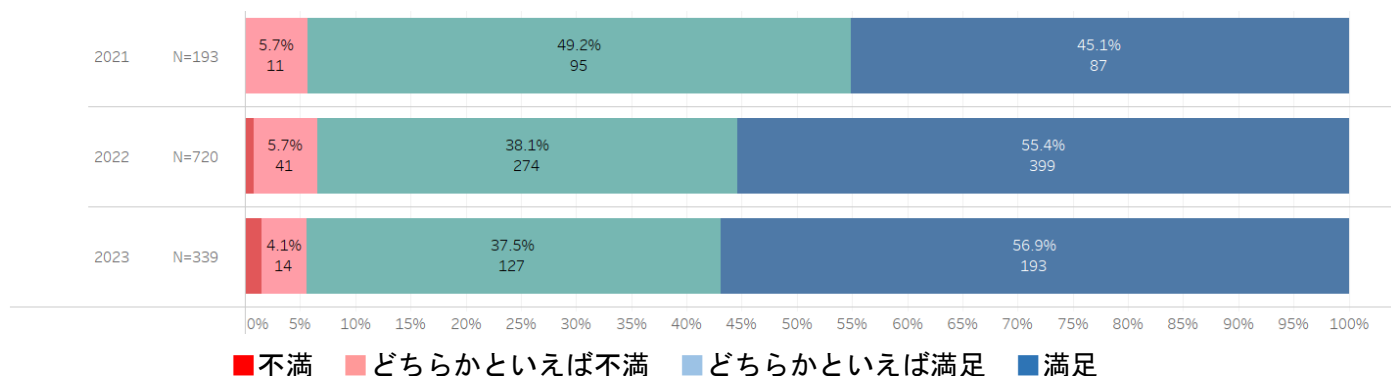
調査方法 : グーグルフォームを利用した Web アンケート

回答所要時間：約 5 分

内 容 : ちば産学官連携プラットフォーム共通の項目に、卒業時の満足度等に本学独自項目を追加。

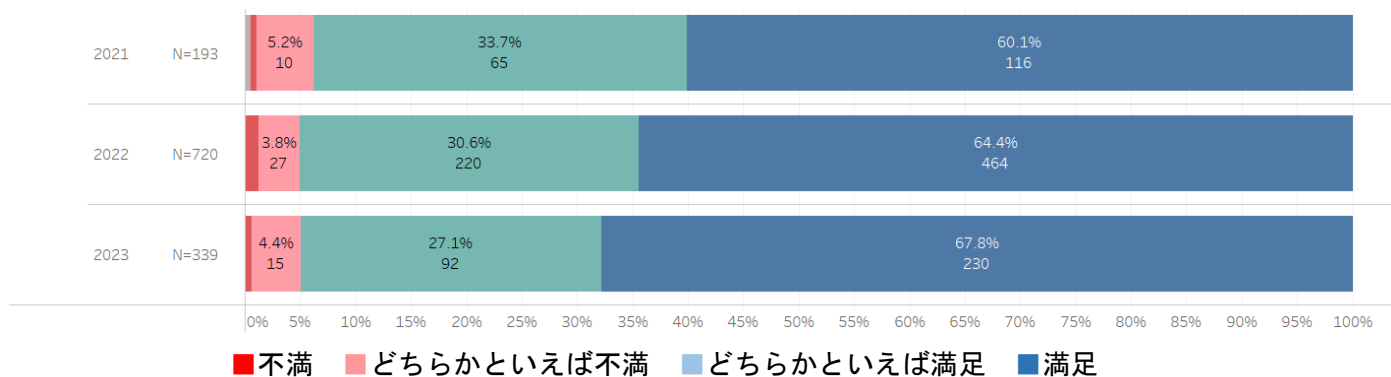
授業に関する満足度

⇒とても満足＋満足は90%前後。とても満足は増加傾向。



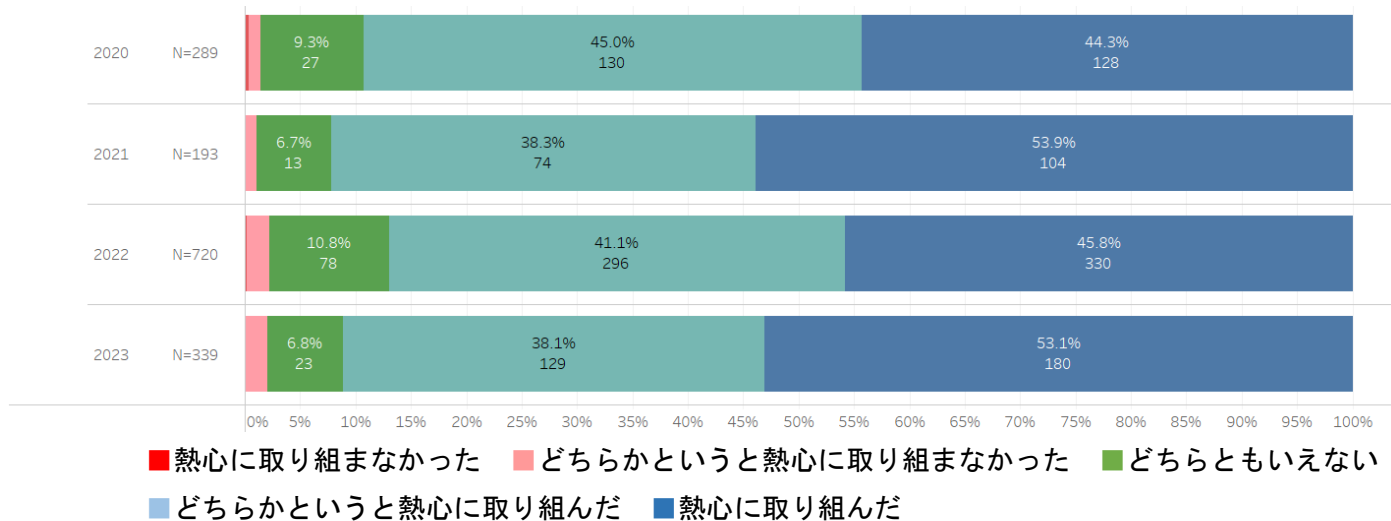
学内施設の満足度

⇒とても満足＋満足は 90%前後。とても満足は増加傾向。



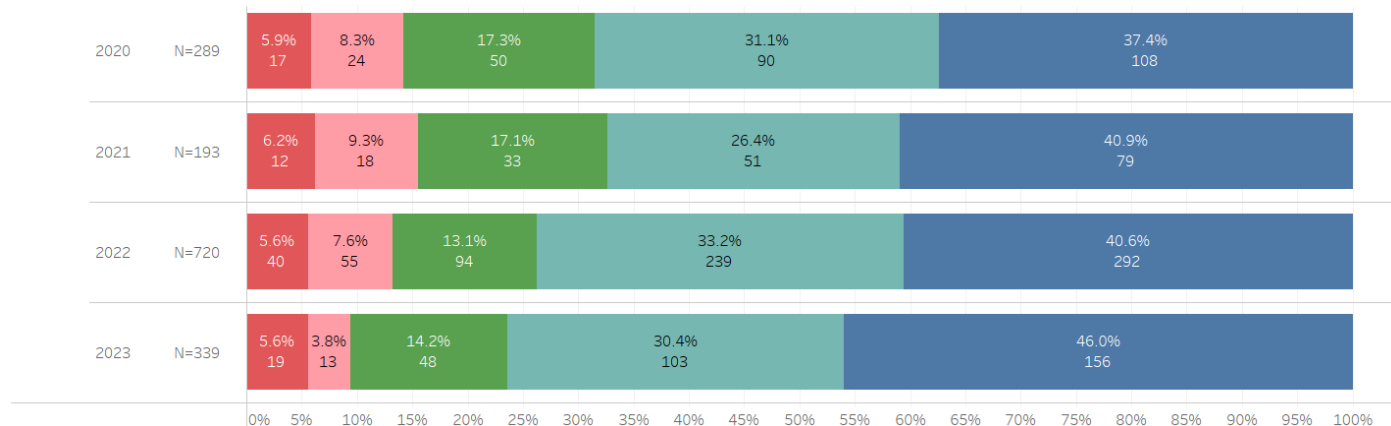
大学で力を入れたこと：大学の勉強（授業とその予習・復習・課題を含む）

⇒毎年 85%前後が熱心に取り組んでいる（熱心に取り組んだ＋どちらかという熱心に取り組んだ）



大学で力を入れたこと：就職活動

⇒73%前後が熱心に取り組んだ＋どちらかという熱心に取り組んだ、増加傾向。



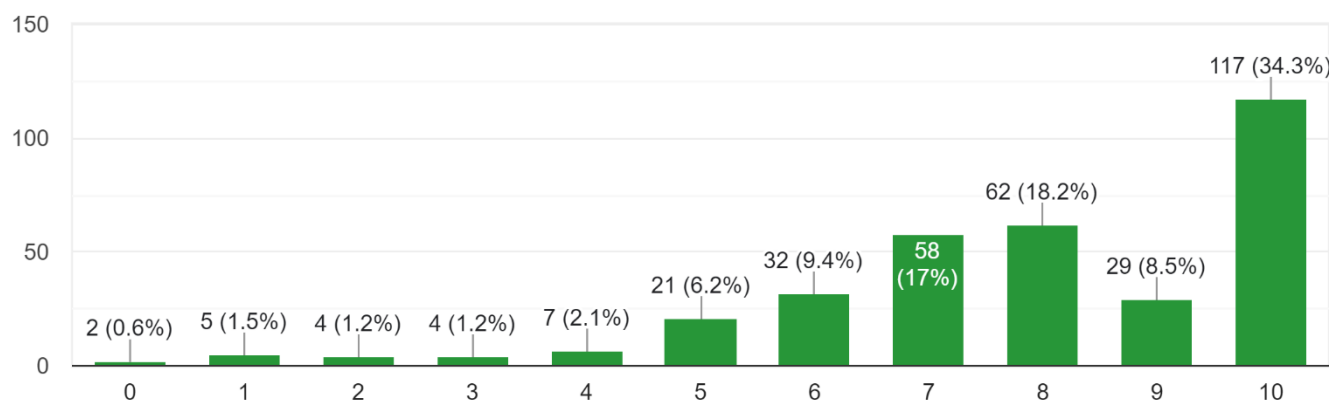
知り合いへの推奨度

⇒NPSは20.6（9点または10点をつけた推奨者の合計42.8%から、0～6点の批判者の合計22.2%を減算）

参考：「NPS とは」 <https://www.nttcoms.com/service/nps/summary/>

Q30..知り合いに神田外語大学をお勧めしますか。

341 件の回答



新入生アンケート集計結果 —2024 年度—（抜粋）

●本学における新入生アンケート実施状況

期 間：2024 年 3 月 27 日（水）～2024 年 4 月 10 日（水）

対 象：学部の新 1 年生（987 名）

回 答 数：870 件、回答率 88.1%

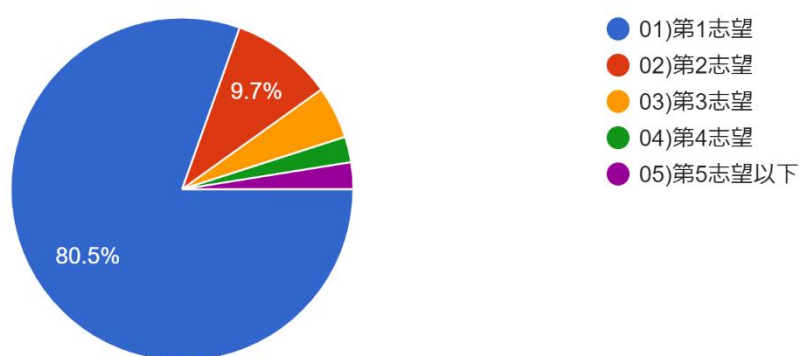
調 査 方 法：グーグルフォームを利用した Web アンケート

回答所要時間：約 15 分

内 容：入学時の学習や生活の状況を調査。

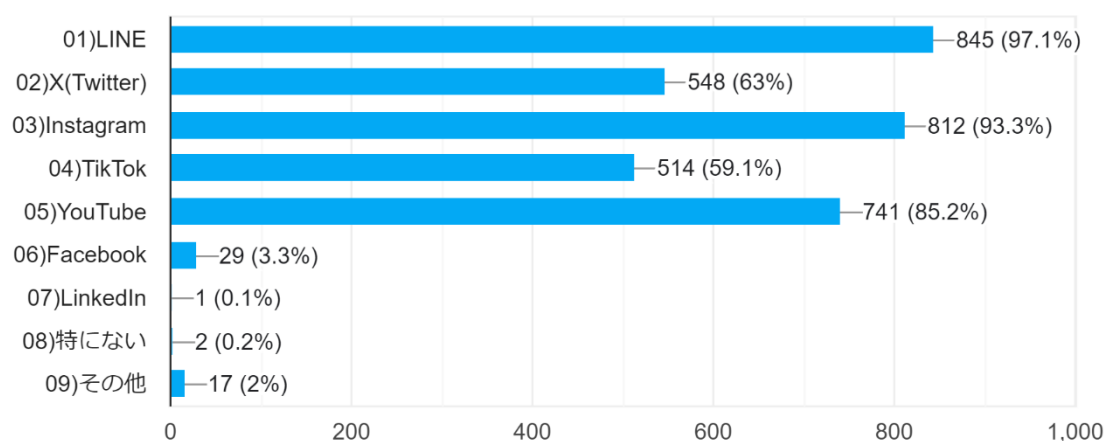
Q05.. 神田外語大学の志望順位を教えてください。

870 件の回答



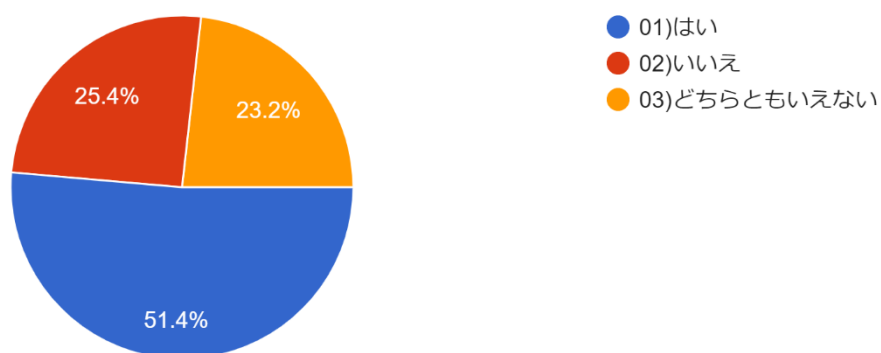
Q70.. 現在、日常的に使用しているSNSサービスを教えてください。（複数回答可）

870 件の回答



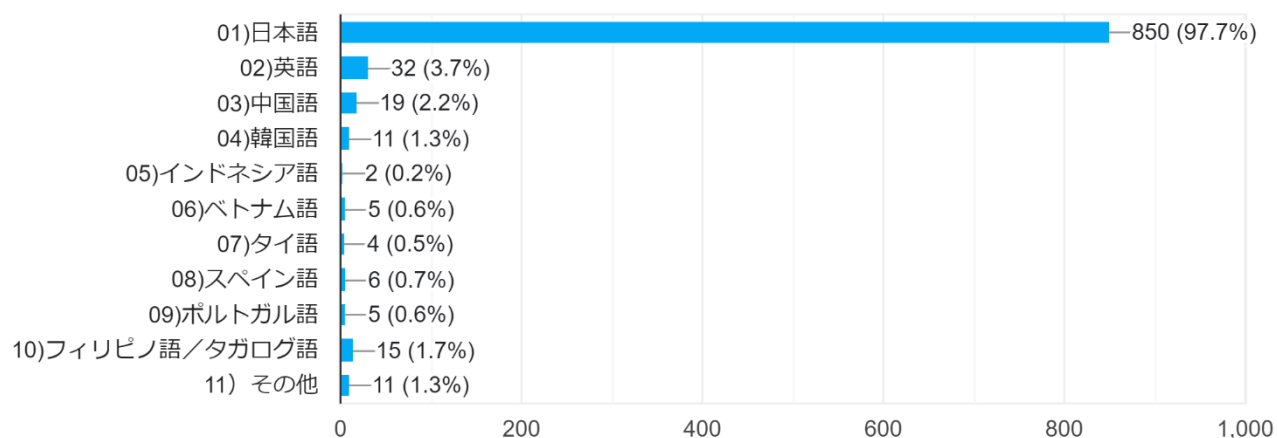
Q79.. 日本語でレポートを書くことや、日本語の語彙力に不安がありますか。

870 件の回答



Q80.. 普段の生活で、保護者・家族とは何語を...るすべての言語を選択してください。（複数回答可）

870 件の回答



大学情報・機関調査研究会（MJIR）発表要旨

大学情報・機関調査研究会（MJIR）研究集会において、本学のIR部門が発表しましたので、その要旨をここに掲載いたします。

大学情報・機関調査研究会 MJIR (Meeting on Japanese Institutional Research) とは

日本の高等教育機関および研究機関の自律的運営と、その発展に寄与する機関調査 (Institutional Research) を推進・支援する研究会。2012年より活動を開始。IRの事例紹介や研究発表を通じて、日本におけるIRの推進に寄与するとともに、経営学や統計学、情報科学など、関連する分野の研究者や実務家および教育者の人的交流の促進とネットワーク形成を図っている。

神田外語大学における IR ファクトブックの企画と一部製作

— Factbook、Data Lake、Google Sites Analytics、ChatGPT の活用 —

Planning and partial production of IR-Web Factbook at

Kanda University of International Studies.

— Use of Factbook, Data Lake, Google Sites, and Analytics, ChatGPT —

寺澤 岳生*(神田外語大学) 村田 裕司(神田外語大学)

*terazawa@kanda.kuis.ac.jp

抄録

神田外語大学では、2021 年に本学の教学 IR 分析基盤(データレイク)を整備し、2022 年には大学 IR ダッシュボードを構築した。そして、自学の教学 IR 活動において定型的な可視化グラフについて半自動化(システム化)を実現することができた。一方、学外に対しての情報公表については、ファクトブックが未整備であることなど課題がある。本発表では、中小規模大学における、費用を抑えた形で構築したウェブ・ファクトブックの企画や一部製作について経緯や手法、気をつけた点などを実践報告する。

キーワード: IR ファクトブック, データレイク, グーグルサイト, 大学機関調査

1. 本発表の目的と課題

本発表では、一昨年は、教学 IR 分析基盤を設計・一部構築し、昨年は、教学 IR ダッシュボードの企画・導入して、大学執行部の意思決定を支援する土台作りに取り組んだ[3]。その流れの中で、本発表は、学内だけでなく、学外のステークホルダーに対しても情報を公開する部分において、本学では企画や構築に試行錯誤しながら、新しく取り組んでおり、今回はその実践的事例を発表する。また、過去の本研究会での発表では Google サイトを活用した IR ファクトブックの事例は未だ少なく、IR に掛けられる予算の少ない中小規模の大学が、新たにファクトブックに取り組む際の具体的な内容を情報共有する。

神田外語大学(私立大学、中小規模、2 学部、学生数約 4,000 名)において、費用のかかる特注システムではなく、費用を抑えた形での教育クラウド・パッケージシステムを活用した神田外語大学 IR ファクトブック(K-Fact:KUIS IR Factbook)の企画から製作について報告する。前述の K-Fact は、グーグル合同会社が開発した教育クラウド・パッケージシステムのグーグルサイトをプラットフォームとして採用した。K-Fact の内部では、Google Sheets が稼働し可視化グラフを作成している。ChatGPT も活用している。

近年、大学では公共性の高い教育機関として、社会に対する説明責任を果たすとともに、その教育の質を向上させる観点から教育活動等の状況を公表することが求められており[1]、本学でも、大学公式ウェブサイトの情報公表ページにおいて、学内外に学生数、収容定員充足率、教員数など各種大学データを適宜公表してきた。しかし、その公表の仕方については、単年度ごとに情報を掲載している、または、経年データであったとしても帳票形式で公表をしているケースがあ

り、必ずしも可視化はなされていない状況であった。一方、他大学の事例を見ると、図表の場合もあるがファクトブック形式でデータがまとめられていることや、グラフでビジュアライズされており、より分かり易く情報が公表されていることが分かった[2]。そこで、本学では未だ制作できていないファクトブックを、紙媒体の冊子ではなく電子的に実現し、また、中小規模の大学であるので、できるだけ費用を抑えた形で作成することを検討した。

2. 神田外語大学の教学 IR 部門

神田外語大学は、千葉県千葉市にある学生数約 4,000 名(女子:男子≒7:3)の中小規模の私立大学で、1987 年に開学し今年で 36 年目になり、現在は、2 学部 5 学科 9 専攻の体制である。「言葉は世界をつなぐ平和の礎」という建学の精神に基づき、国際社会の一員として世界に貢献する意欲と能力を持つ人材の育成に取り組んでいる。

下記の図 1 は、本学 IR 部門のイメージ図であり、大学執行部の依頼に基づいたデータ提供、学内においては学生・教職員への学生アンケートの実施や結果のフィードバックを行い、主に学外関係者においては卒業生アンケートの実施や今回新規の KUIS FACTBOOK による情報公開に取り組んでおり、また企業アンケートのトライアルも実施している。

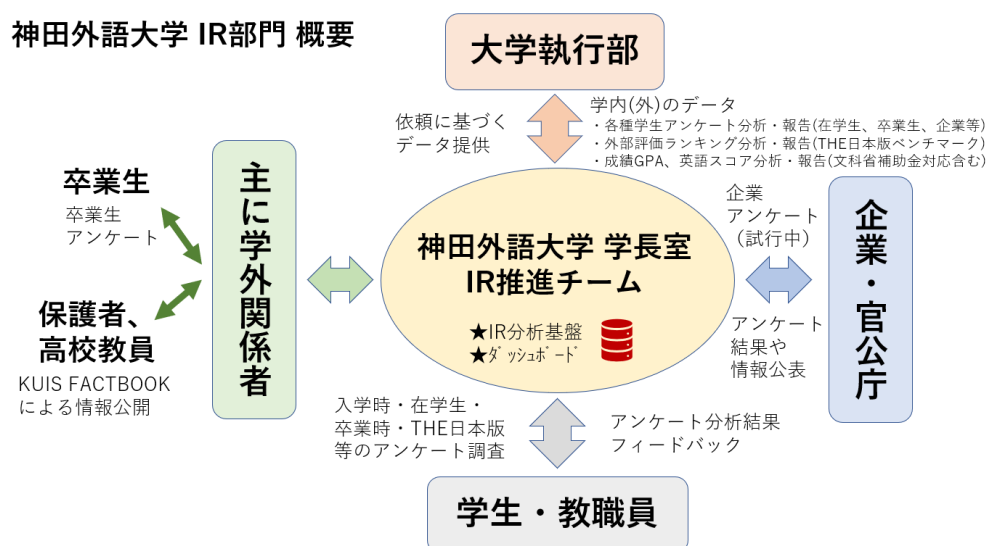


図 1. 神田外語大学 IR 部門のイメージ

3. 神田外語大学における IR ファクトブックの企画と制作

大学のファクトブックでは、学生数や収容定員、教員数やその年齢構成などをグラフィカルに表示する機能が必要である。用途としては、その一部を大学公式ホームページにリンクし、学内外から見ることができるようにしている大学も多く存在している。前述より本学の IR 部門は、執行部の意思決定を支援することを主たる目的としているが、IR ファクトブックによって学外への情報公表にも寄与していくことも大切であると考えている。

3.1. 準備(データの前処理)について

今回検討した IR ファクトブックは、大学が契約の Google サイトを使用する。本学が大学公式ウェブサイトの情報公表のホームページに掲載しているデータは、学内の各部門がそれぞれ管理しており、Excel のセルが結合された帳票形式のデータや PDF のデータ形式の場合もあり、現時点では本学では BI ツールの使用は難しいと考えた。KUIS データレイク[4]には、それらの集計済みのデータを年度のフォルダに分けて経年で保管し、Google スプレッドシートを経由して、Google サイトにグラフを表示する仕組みで取り組んだ。

Used Link Reader

以下に、指定された情報を基に作成した表1.外国語学部(西暦)と表2.言語科学研究科(元号と西暦混在)を示します。なお、PDFデータから正確に読み取れなかった部分は空白セルとしています。

表1.外国語学部(西暦)

年度	入学者数	入学定員	学生数	(うち社会人)	収容定員	入学定員充足率	収容定員充足率	留学者数	退学者数	(うち除籍数)	卒業率	中退率	留学生数	外派遣学生数	学位授与(卒業生)数
2007	814	753	3183	2	2928	108.1%	108.7%	88	70	8	91.4%	2.2%	111	138	698
2008	820	753	3291	4	3114	108.9%	105.6%	101	60	8	93.7%	1.8%	107	55	735
2009	856	823	3395	3	3254	104.0%	104.3%	88	76	6	89.5%	2.2%	102	71	721

図 2. 情報公表ホームページに記載されているデータの読み込み

なお、図 2 より、本学情報公表ページに掲載されている一部の PDF は、ChatGPT のプラグイン(Link Reader、Noteable 等)で読み込み表や csv データ化をしている。以下には、Google サイトをファクトブックに利用する際のメリットとデメリットを記す。

◆メリット

集計済みのデータをスプレッドシート経由でグラフ表示できる。仮に粒度の細かい 1 次データであっても集計済みのデータと同様の仕組みで可視化できる。教職員に配布している Google アカウントのアクセス権限で制御できる。Google Analytics(グーグルアナリティクス)でウェブサイトのアクセス集計・分析も可能。

◆デメリット

集計済みのデータであるので、学部学科ごとやデータの内訳毎のドリルダウンができない。PDF データの場合には、自動集計ができない(スプレッドシートに手作業でコピーが必要)。帳票形式のワイド型のデータが多く、縦長のロング型のデータに変換する必要がある。

将来的には、BI システムを使用できる可能性はゼロではないが、現時点では、教員数や年齢区分などは各部門が 1 次情報を管理しており、自動化はまだ難しい状況となっている。(現状、教職員データの管理が複数の部門にまたがっており、Excel で管理しているケースもあり、今後、教職員データベース化がなされれば、システムからダウンロードできるようになる可能性はある。)

3.2. について

本件を進めるにあたっては、事前に、大学情報公表のページにデータを掲載している(1 次情報を所持している)部門に行き、Web 版ファクトブックの企画の説明と、情報の可視化掲載について、技術面だけでなく各部門とのコミュニケーションも大切にし、できる限り丁寧に説明をして回った。具体的には、総務部には前年度や企画前、公開前など数回足を運び、本事業の背景や目的、そして、使用するデータについて説明や意見交換を行った。過去のデータについても可能は範囲での提供を依頼した。また、学生支援部や教務部からは、それぞれの項目について管轄があり、退学者、中退率は、遡って退学などのケースがあることの指摘を受け、大学事務局が情報公表のホームページにデータを掲載する時期に合わせて、本ファクトブックも毎年更新していくことになった。

3.3. 制作について

大学 IR 分析基盤は、図 3 より、データを入手する ETL ツール(Extract Transform Load Tools)、データを蓄積する統合データベース(DWH:Data Ware House)、データを分析する分析ソフトウェア(Data Analytics Software)などの構築や運用が必要とされている[5]。本学の IR データ分析基盤は、図 4 より、DWH には及ばないが、安価に簡単にデータを一箇所にまとめることができるデータレイクを構築して運用している。

定型的なグラフや IR ダッシュボードは、教務システムのデータベースから夜間バッチでデータをダウンロードし、分析ツールの Tableau や IR ダッシュボード IRQuA (イルカ) [6] を活用して可視化を行っている。IR ファクトブックについては、IR 部門のスタッフが、毎年 5 月の学校基本調査の時期以降に、各部署や情報公表のページから Excel や PDF のデータを入力し、年度のフォルダ名を付けてデータレイクに保管している。

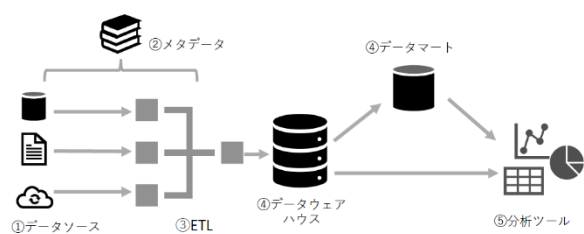


図3 IR分析基盤の構成要素
(図3は、参考文献[5]より引用)

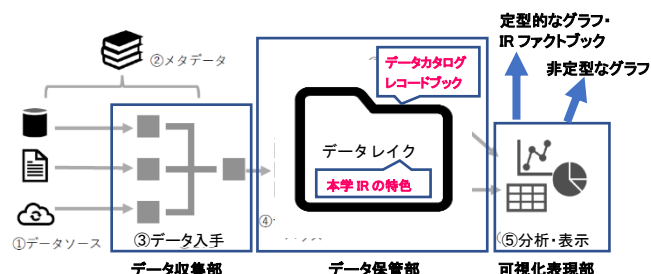


図4 データレイク方式によるIR分析基盤
(図4は、参考文献[3]より引用)

本学の IR ファクトブックでは、下記の要件を検討した。

- ・要件 1: 各部署が持っている情報公表のデータを経年で保管し Web 上でグラフ化。
- ・要件 2: 費用を掛けずにできるだけ安価に実現。
- ・要件 3: 集計済みのデータ (Excel、PDF 等) と粒度の細かいデータの両方に対応。
- ・要件 4: 作成したホームページのアクセス数や履歴を収集。
- ・要件 5: ドメインやアカウントなどでアクセスを制限をする機能。

ここで Microsoft 365 でも SharePoint がありホームページを作成できたが、本学は学生、教職員に Gmail のアカウントを配布していることや Google ドライブを使用していることもあり、Google Workspace の Sites を活用することにした。



図5. IR ファクトブックのスパッドシート画面

仕組みとしては、情報公表をしているデータ(Excel、PDF 等)を一度、Google スプレッドシートに年度ごとに転記して元データを作り、グラフ化して、Google サイトに引用する形で、可視化表現している。なお、集計済みの PDF ファイルについては、Adobe 社の Acrobat を使用しても上手くデータ化して CSV ファイル等にダウンロードすることが難しかったので、PC の画面のコピー＆ペースト等で適宜対応した。今後の課題としては、1 次データを入手することや、セル結合のないデータを入手するなど、部門間でのやり取りを密にして、データ収集面を充実させていきたい。図 5 はスプレッドシートの画面例である。

図 6 には Google サイトの画面例を示す。画面右上には、インターネット上に公開／非公開を切り替えるボタンがあるので、編集の場合や公開前の上長確認の際には公開しないように気をつけている。不測の事態やデータに不備があった場合には、公開の停止をクリックすると一時的に非公開にすることができる。また、人形にプラスマークの他のユーザーと共有ボタンを押すことで、共同編集者を設定することやアクセス制限を制御することができる。そして、歯車マークの設定から、アナリティクス・メニューをクリックし、トラッキング ID を設定することで、Google Analytics で、アクセス数やアクセス履歴などのデータの入手や自動グラフ表示などを確認することができる。



図 6. IR ファクトブックの Google サイトの画面例



図 7. IR ファクトブックの Google Analytics の画面例

図 7 には、Google アナリティクスの画面例を示す。Google Analytics では、IR ファクトブックのアクセス数の収集だけでなく、日にちごとのグラフ化や分析情報をクリックすることで、各種の切り口でデータを表示することができる。また、ネットワークアドレスごとになるが、アクセスロケーションを Google マップ上に図示することもできる。

3.4. 活用について

閲覧対象としては、学内外から大学の情報公表のホームページにアクセスしてくるユーザーを想定している。今までは、情報公表のページには、文字や数字、表形式で掲載していたが、グラフィカルに表示することや経年で見るようになることで、大学の状況をよりイメージし易い形で情報提供が可能となった。アクセス数は、1 週間で 15 ユーザー程度と未だ少ないが、学長室内で閲覧しているユーザーからは必要な時に見ている、表で細かい数字を確認するよりは分かり易くなった等の意見がある。図 8 には、実際の公開画面の例を示す。情報公表のホームページの上部最初にリンクボタンを設置した。



図 8. IR ファクトブックの公開画面例

4. おわりに

今回の発表では、中小規模大学の IR ファクトブックの企画から一部制作までの一連の流れを比較的安価に容易に実現できるように、そのフェーズごとに気をつけている点を実践報告した。また、セミナーでも具体的に語られることが少ないデータの前処理やアクセスデータの収集や分析などの実務的な面で気をつけている点も合わせて情報共有した。

参考文献 *** --- *-*- ***** -*- *** --*- ---* ** * *** -*- ****-* -*-*--*-*

- [1] 文部科学省, “教学マネジメント指針(追補)”, 2023, アクセス日 2023-05-30.
https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1411360_00001.html
- [2] 高田 英一, 高森 智嗣, 森 雅生, 九州大学 “IR におけるデータ提供と活用支援のあり方について:九州大学版ファクトブック「Q-Fact」の取組の検証を基に”, 大学基準協会大学評価・研究部編, 13 号, pp. 101-111, 2014.
- [3] 寺澤 岳生, “神田外語大学における教学 IR 分析基盤の設計・一部構築— Data Lake, Excel, Tableau の活用 —”, 第 10 回大学情報・機関調査研究集会 MJIR, 2021.
- [4] Amazon Web Services, Inc., “データレイクとは”, 2023, アクセス日 2023-06-23.
<https://aws.amazon.com/jp/big-data/datalakes-and-analytics/what-is-a-data-lake/>
- [5] 森 雅生, 大石 哲也, 東京工業大学 “Institutional Research 論”, 2020.
- [6] ヴェルク株式会社, “IRQuA”, 2023, アクセス日 2023-06-23, <https://irqua.jp/>

神田外語大学 学長室 IR 推進チームの目的・活動内容（職務分掌）

目的

神田外語大学の運営上の意思決定および計画立案をサポートする。

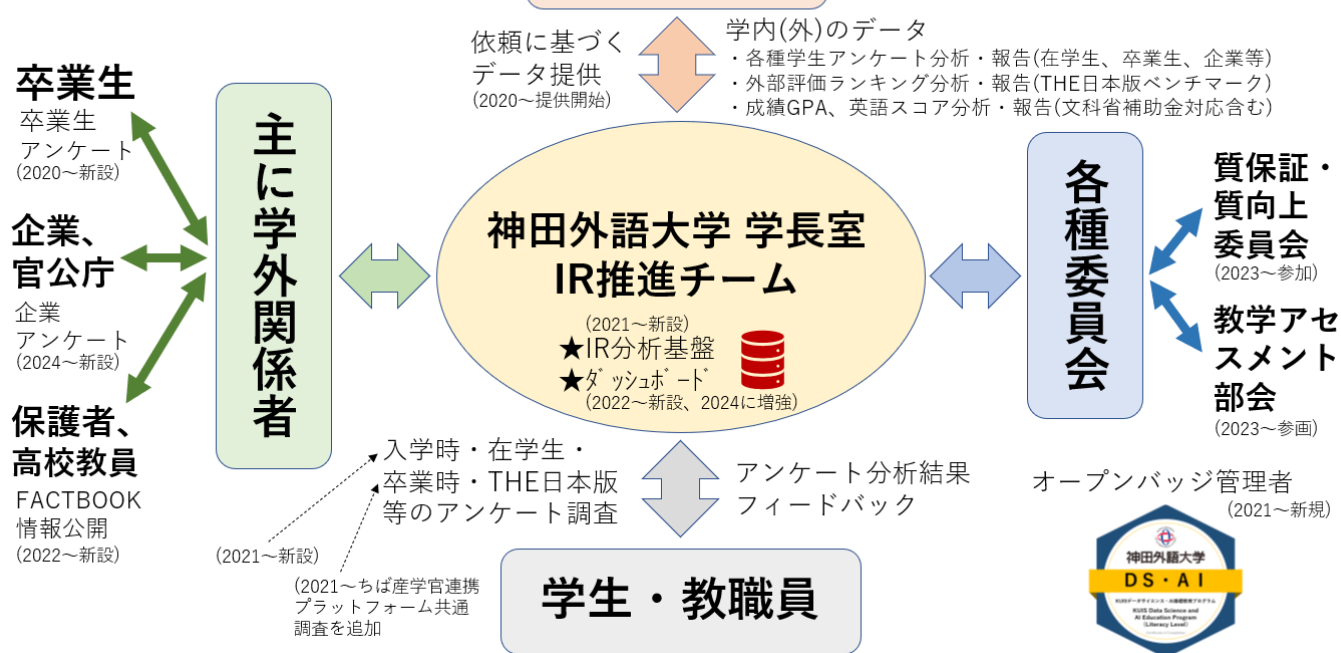
職務（概要）

支援に必要な情報の収集・分析・提供・保管を行う。

イメージ図

神田外語大学 IR部門 概要

2023年9月～



備考

※大学 IR 部門は、意思決定や計画立案までは行わない。（意思決定のための情報提供を目的としている）

※大学 IR 部門は、個別業務を支援するのではない。（個別業務のためのデータ提供が目的ではないため）

神田外語大学 学長室 IR 推進チームの主な活動記録（部門の沿革）

2020 年度

- 4 月、学長室 IR 推進チームが設置（旧 IR 推進室が学長室に統合）
- 5 月、神田外語大学 IR 分析基盤の検討開始
- 9 月、大学執行部からの依頼に基づくデータ提供の開始（不定期）
- 12 月、卒業生アンケート本番実施

2021 年度

- 4 月、入学時アンケート本番実施
- 7 月、神田外語大学 IR 分析基盤構築（KUIS データレイク）
- 12 月、オープンバッジ・ネットワーク協会に加盟（KUIS オープンバッジ・アドミニストレーター）
- 3 月、卒業時アンケート共通調査を開始（ちば産学官連携プラットフォーム）

2022 年度

- 10 月、神田外語大学 IR ダッシュボード KID 正式運用開始（ヴェルク株式会社 IRQuA: イルカ採用）
- 12 月、オープンバッジ発行開始（KUIS グローバルアンバサダー35 名）
- 2 月、企業アンケート試行調査開始
- 3 月、KUIS ファクトブック K-Fact 構築

2023 年度

- 9 月、教学アセスメント部会（新設）参加開始
- 9 月、質保証・質向上員会（定例化）参加開始
- 11 月、KUIS IR ダッシュボード KID 入試機能の正式運用開始（VELC 株 IRQuA）、
大学執行部メンバーへの説明会を開催

神田外語大学 学長室 IR 推進チームの年間スケジュール（2023 年度）

※年間を通じて、大学執行部会議に、IR データを報告・提供しています。

4 月 新入生アンケート実施（A&C 部、学長室で協働） 前年度卒業時アンケート結果集計・分析作業 全学業務：入学式業務、誘導	10 月 大学執行部向け IR ダッシュボード説明会 ファクトブック当該年度分の公開 全学業務：入試業務、試験監督 学外発表：大学 IR コンソーシアム講演会（寺澤） 教学アセスメント部会（2 回）
5 月 大学 IR コンソーシアム IRiS システムの前年度「学生情報データ」（5 月）登録作業 IR コンソーシアム 選挙管理委員（寺澤） THE 世界大学ランキング結果分析ミーティング	11 月 在学生アンケート回答者への御礼 MJIR 発表（寺澤、村田） 文部科学省全国学生調査（試行調査） 全学業務：入試業務、試験監督
6 月 大学 IR コンソーシアム 定時正会員総会出席 前年度卒業生アンケート結果集計・分析作業 IR ダッシュボード IRQuA データ抽出作業 KUIS IR 分析基盤システム年度データ加工作業	12 月 卒業生アンケート調査実施 全学業務：入試業務、試験監督 教学アセスメント部会
7 月 THE 日本版学生アンケート実施（7 月～10 月） THE 世界大学ランキング日本版学内説明会実施 教職員対象学生アンケート報告会実施 他部門協力：英語テストの写真照合・問題配布等	1 月 次年度新入生アンケート A&C 部と検討 企業アンケート設計 全学業務：入試業務、試験監督 教学アセスメント部会
8 月 在学生アンケート準備作業 KUIS ファクトブック（電子版）データ更新作業	2 月 企業アンケート実施 大学 IR コンソーシアム IRIS システム 2022 年度「共通調査データ」（2 月）登録作業 全学業務：入試業務、試験監督 教学アセスメント部会
9 月 全学教員連絡会で前年度アンケート結果抜粋報告 在学生アンケート調査実施（9 月～11 月） 私立大学等改革総合支援事業、教育の質に係る客観的指標（文科省）IR 関係データの一部を作成 THE 世界大学ランキングデータ作成 質保証・質向上委員会	3 月 卒業時アンケート調査実施 新入生アンケート準備 THE 世界大学ランキング結果（速報）資料作成 全学業務：卒業式業務、学位記 質保証・質向上委員会

神田外語大学 学長室 IR 推進チームの主な活動記録（2023 年度）

【執行部、学長、理事長への報告事項】

- ◆ 4 月 19 日(水)、執行部会議、KUIS データサイエンス・AI 基礎教育プログラムにおけるオープンバッジの活用について陪席※神田外語大学オープンバッジ管理者として(寺澤)
- ◆ 5 月 24 日(水)、執行部会議、学生アンケート調査の結果(速報)について(寺澤、村田)
- ◆ 6 月 21 日(水)、大学評議会、新入生アンケート調査の結果について(村田)
- ◆ 7 月 5 日(水)、執行部会議、入学前英語スコア報告(村田)
- ◆ 9 月 20 日(水)、執行部会議、入試区分別英語スコア(村田)
- ◆ 10 月 4 日(水)、執行部会議、教学 IR 機関調査結果表(教学 IR 検診結果票)(寺澤)
- ◆ 11 月 27 日(月)、執行部会議、神田外語大学 IR ダッシュボード新機能(入試機能)説明会(寺澤)
- ◆ 2 月上旬、理事長に報告、初めてのオープンバッジ発行を報告(KUIS グローバルアンバサダー35 名)
- ◆ 3 月上旬、学長より依頼、OpenAI 社 ChatGPT、Microsoft 社 Bing チャットの使い方を説明(寺澤)

【学内への報告事項】

- ◆ 4 月 3 日(月)、全学教員連絡回、THE 日本版ランキング結果(速報)(村田)
- ◆ 7 月 5 日(水)、学内 IR 説明会、THE 日本版ランキング分析結果報告(学長室主催、進研アド)
- ◆ 8 月 2 日(水)、学内 IR 説明会、在学生アンケート 概要説明(寺澤、村田)
- ◆ 9 月 6 日(水)、全学教員連絡会、在学生アンケート ポイント説明(寺澤、村田)

【学内の委員会】※2023 年度より新設の質保証・質向上委員会と教学アセスメント部会に参画

- ◆ 9 月 7 日(木)、質保証・質向上委員会(村田)
- ◆ 10 月 4 日(水)、教学アセスメント部会(寺澤、村田)
- ◆ 10 月 25 日(水)、教学アセスメント部会(寺澤、村田)
- ◆ 12 月 6 日(水)、教学アセスメント部会(寺澤、村田)
- ◆ 3 月 7 日(木)、質保証・質向上委員会(村田)

【学外への報告発表、コンサルティング】

- ◆ 4 月 19 日(水)、IRQuA で大学 IR の効率化とデータ活用を推進(寺澤、村田)
- ◆ 5 月 16 日(火)、AI サービス「Senju」が神田外語大学 学生アンケートを自動分類(寺澤、村田)
- ◆ 6 月 2 日(金)、神田外語大学が学生アンケート調査に自然言語処理 AI を活用(寺澤、村田)
- ◆ 6 月 16 日(金)、AI による働き方改革 学生アンケート調査に自然言語処理 AI を活用(寺澤、村田)
- ◆ 7 月 29 日(土)、ChatGPT Plugin の紹介、Python で音声文字起こし(寺澤)
- ◆ 10 月 23 日(月)、簡単にできる！学生アンケート結果の散布図を使った分析事例(寺澤)
- ◆ 11 月 17 日(金)～19 日(日)、大学情報・機関調査研究会 MJIR、
「神田外語大学における IR ファクトブックの企画と一部製作」(寺澤、村田)

【学外の委員会】

- ◆ 4 月 30 日(月)、IR コンソーシアム、理事選挙業務(寺澤)
- ◆ 5 月 24 日(水)、IR コンソーシアム、中期計画部会会議(寺澤)
- ◆ 6 月 22 日(木)、IR コンソーシアム、総会受付業務(寺澤)
- ◆ 6 月 30 日(金)、IR コンソーシアム、広報部会会議(寺澤)
- ◆ 7 月 13 日(木)、IR コンソーシアム、中期計画部会会議(寺澤)
- ◆ 7 月 24 日(月)、IR コンソーシアム、広報部会としてオンライン説明会：N 大学(寺澤)
- ◆ 9 月 13 日(水)、IR コンソーシアム、広報部会としてオンライン説明会：K 大学(寺澤)
- ◆ 11 月 30 日(木)、IR コンソーシアム、広報部会としてオンライン説明会：C 大学(寺澤)
- ◆ 12 月 25 日(月)、IR コンソーシアム、広報部会としてオンライン説明会：CK 大学(寺澤)
- ◆ 1 月 11 日(木)、IR コンソーシアム、広報部会としてオンライン説明会：GI 大学(寺澤)
- ◆ 2 月 28 日(水)、IR コンソーシアム、中期計画部会会議(寺澤)

【来客、視察、講演会の開催、見学（KUIS IR 部門）】

- ◆ 今年度、来校者はありませんでした。
- ◆ 3 月 29 日(金)文京学院大学 IR 部門、情報システム部門を見学・意見交換(寺澤)

【学内外の委員、役員】

- ◆一般社団法人 大学 IR コンソーシアム 選挙管理委員会 選挙管理委員 (寺澤)
- ◆一般社団法人 大学 IR コンソーシアム 中期計画検討部会 副部会長 (寺澤)
- ◆一般社団法人 大学 IR コンソーシアム 広報・ワークショップ部会 委員 (寺澤)
- (全国 66 大学加盟の IR 関係コンソーシアム) <https://irnw.jp/>
- ◆GPS-Academic ラボ 委員 (フェロー) (寺澤)
- ◆神田外語大学 オープンバッジ管理者 (寺澤)

【研修、研究会、分科会、セミナー、シンポジウム参加】

- ◆ 8 月 4 日(金) IR データ可視化講習会(九州工業大学 大石先生、小樽商科大学 西出先生)(寺澤、村田)
- ◆ 9 月 5 日(火) デザイン思考ワークショップ参加(寺澤)※法人本部より連絡あり
- ◆ 10 月 20 日(金) 山形大学 IR 実務担当者実践プログラム・シンポジウム(寺澤)※開催地：山形大学出張
- ◆ 11 月 20 日(月) よくわかる Access2019 基礎【E ラーニング】(富士通株)(寺澤)
- ◆ 12 月 23 日(土) 大正大学 EMIR、大学 IR コンソーシアム合同シンポジウム(寺澤、村田)
- ◆ 3 月 6 日(水) オープンバッジ・ネットワーク大学分科会(寺澤、村田)
- ◆ 3 月 16 日(土)～17 日(日) 学習分析学会合宿(JASLA)(寺澤)
- ◆ 5/27、7/29、10/7、11/18、3/23、日本 IR 協会(JAIR) 定例研究会

【オープンバッジ発行 (2022 年度～)】

- ◆ 2 月 1 日(木)、国際戦略部、KUIS グローバルアンバサダー2023(KGA) 修了証(42 名)
- ◆ 3 月 1 日(金)、学長室、KUIS データサイエンス・AI 基礎教育プログラム 2023 修了証(5 名)

【特記事項】

- ◆ 8 月、第 1 回 AI プロンプトグランプリ 佳作 入賞(寺澤)
- ◆ 10 月、卒業生アンケートの改善案を企画(寺澤)※ギフト券配布の郵便追跡サービス提案、学報掲載案。
- ◆ 10 月、IR ダッシュボード「IRQuA (イルカ)」の「データ定義書(追補版)」を作成。
- ◆ 11 月、IR ダッシュボード「IRQuA (イルカ)」の「入試機能」を執行部メンバーに運用開始。
- ◆ 2 月、企業対象のアンケート調査の正式運用を開始。(昨年はトライアル)

【資料】

- ◆「神田外語大学 IR 年次報告書 PDF」、「教育条件、学生の状況等のグラフ」
⇒神田外語大学 情報公表ホームページに掲載しています。

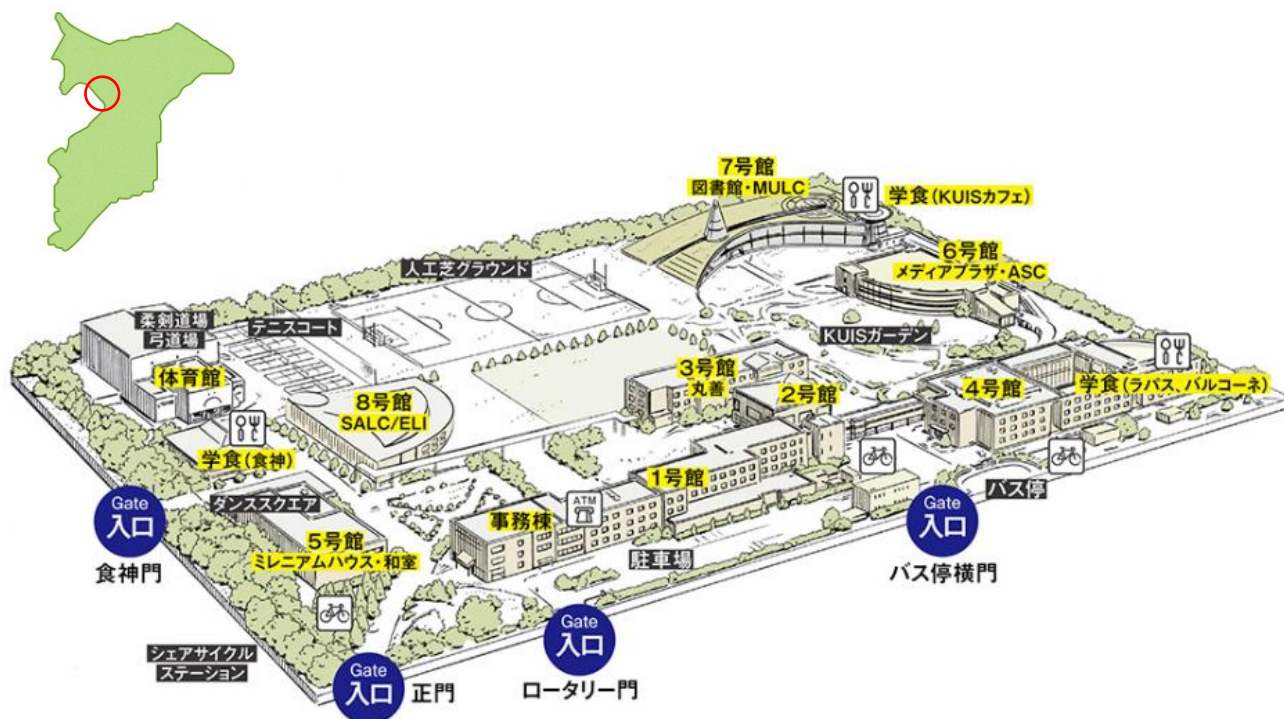
<https://www.kandagaigo.ac.jp/kuis/main/about/announcement/>



所在地

〒261-0014 千葉県千葉市美浜区若葉 1-4-1 神田外語大学 学長室 事務室

メール : officeir@kanda.kuis.ac.jp



<学長室 IR 推進チーム 体制 (2020 年 4 月 1 日より)>

シニアマネージャー・専任 村田 裕司
チーフ・専任 寺澤 岳生

発行 : 2024 年 7 月 神田外語大学 学長室 IR 推進チーム
執筆(編集)・装丁(デザイン) : 寺澤 岳生・村田 裕司